取扱説明書

DuraVision®
SGX0031

ストリーミングゲートウェイボックス

ソフトウェアバージョン 7.3

重要

ご使用前には必ずこの取扱説明書およびセットアップマニュアルをよくお読みになり、正しくお使いください。

- 取扱説明書を含む最新の製品情報は、当社のWebサイトから確認できます。
  www.eizo.co.jp

製品の仕様は販売地域により異なります。お買い求めの地域に合った言語の取扱説明書をご確認ください。

1. 本書の著作権はEIZO株式会社に帰属します。本書の一部あるいは全部をEIZO株式会社からの事前の許諾を得ることなく転載することは固くお断りします。
2. 本書の内容について、将来予告なしに変更することがあります。
3. 本書の内容については、万全を期して作成しましたが、万一誤り、記載もれなどお気づきの点がありましたら、ご連絡ください。
4. この製品の使用を理由とする損害、逸失利益などの請求につきましては、上記にかかわらず、いかなる責任も負いかねますので、あらかじめご了承ください。

目次

1 はじめに 5
1.1 特長 5
1.2 ライセンス 6

2 設定画面の表示 7
2.1 初回起動時のユーザー登録をおこなう 7
2.2 設定画面を表示する 11

3 ストリーミングゲートウェイ機能の設定 12
3.1 配信モードとプロトコルを設定する 13
3.2 配信設定をおこなう 14
3.3 エンコード設定をおこなう 16

4 システムの設定 17
4.1 基本情報の確認 17
4.2 ネットワーク設定をおこなう 19
4.3 通信設定をおこなう 21
4.4 日付と時刻を設定する 22
4.5 言語を設定する 23
4.6 システムを初期化する 24
4.7 システムを再起動する 24
4.8 ソフトウェアを更新する 25
4.9 システムの設定情報を保存する 25
4.10 システムの設定情報を読み込む 26
4.11 ライセンスを登録する 26
4.12 イベントルールを設定する 27
4.13 サーバー証明書を登録する 32
4.14 ルート証明書を登録する 32
4.15 IEEE 802.1X認証を設定する 33
4.16 SNMPを設定する 34
4.17 IPアドレスフィルターを設定する 36
4.18 ログを保存する 36
4.19 基本情報を保存する 36
4.20 カメラの接続確認をおこなう 37
4.21 ネットワークの接続状態を確認する 37
4.22 その他の設定をおこなう 37
4.23 Qognify社のVMSと連携する 37

5 カメラの管理 38
5.1 カメラを自動検出して登録する 38
5.2 カメラを手動で登録する 39
5.3 カメラの情報を変更する 48
5.4 カメラを削除する 48

5.5 カメラの情報を読み込む 48
5.6 配信映像の画質を設定する 49
5.7 静止画を登録する 52

6 ライブ画面（マージモードで配信する画面）の設定 53
6.1 カメラ映像の表示位置を設定する 53
6.2 カメラ映像の表示方法を設定する 54
6.3 カスタムスクリーンのレイアウトを設定する 56
6.4 ライブ画面で選択可能なレイアウトを変更する 57
6.5 シーケンス表示のモードを設定する 58
6.6 プリセットレイアウトを設定する 59
6.7 オーバーレイを設定する 61
6.8 ライブ画面の表示方法を設定する 63
6.9 現在のモニター表示の状態を設定する 63
6.10 ライブストリーミングを確認する 64
6.11 ライブ画面のカメラ映像を最新の状態に更新する 64
6.12 カメラ映像に関する高度な設定をおこなう 65

7 3Dカメラの設定 68
7.1 3D映像を生成するカメラを登録する 68
7.2 3D映像の視差を調整する 69

8 ユーザーアカウントの管理 70
8.1 ユーザーアカウントを登録する 70
8.2 ユーザーアカウントを変更する 71
8.3 ユーザーアカウントを削除する 72
8.4 LDAP設定をおこなう 72

9 ご参考に 75
9.1 カメラ登録用CSVファイル形式 75

10 仕様 77
10.1 仕様一覧 77
10.2 デコード性能 78

付録 79
商標 79
ライセンス 80

1 はじめに

本書では、カメラ（ネットワークカメラ）の設定、システムの設定や仕様について説明します。

1.1 特長

1.1.1 ストリーミングゲートウェイ機能

- 複数カメラの映像を自由にレイアウトして配信する「マージモード」
  ライブ画面の表示をRTSPまたはSRTプロトコルに変換して配信するモードです。
  複数のカメラの映像を自由にレイアウトした画面を1つのストリームとして配信するため、ネットワークの負荷を軽減できます。
- 個々のカメラ映像を配信する「リレーモード」
  個々のカメラから受信した映像をそのまま加工せずに、RTSPまたはSRTプロトコルで再配信するモードです。
  カメラ側に配信負荷をかけずにストリームの配信本数を増やせます。

1.1.2 カメラとの通信

- 4Kカメラ（3840×2160 / 30 fps）からの映像を受信可能
  - 動画圧縮形式H.265、H.264およびMJPEGに対応しています。
  - 配信方式RTP、MPEG2-TS、SRTに対応しています。
  - 最大48台のカメラを登録することができます。
  - 複数のカメラの映像（3面、4面、9面、16面、32面、8面、カスタムスクリーン）を自由にレイアウトできます。
  - ユニキャスト方式およびマルチキャスト方式の通信方式に対応しています。

1.1.3 複数種類のカメラに対応

- ONVIF® ProfileSに対応
- カメラメーカーのプロトコルによるカメラ制御に対応
  （アクシス社、およびパナソニック社 / i-PRO社製のカメラを接続した場合）
- VMS（Video Management Software）などのストリーミングサーバーから配信された映像ストリーミングを受信可能

1.1.4 システム管理

- Webブラウザによるカメラの登録やライブ画面の設定が可能
- 設定情報の保存および読み込みが可能
  コンピュータに設定を保存し、読み込むことができます。

1.1.5 イベント連携機能

- イベントルール
  特定のイベントをトリガーに、実行するアクションを設定できます。
- スケジュール機能
  指定した曜日 / 時間にシステムの電源をオフ / オンするなど、スケジュール設定ができます。

1.1.6 セキュリティ

- 通信エラー検知
  カメラとの通信が途切れた際に、数秒以内にライブ画面上に赤枠のアラートメッセージを表示できます。
- ロック機能
  フロントキー操作を無効化します。
- ネットワークセキュリティプロトコル
  IEEE802.1X、SNMP、LDAPなど高レベルなセキュリティシステムの構築に必要なプロトコルに対応しています。

1.1.7 セキュア通信に対応

- セキュアなプロトコルであるSSL / TLSを採用
  カメラおよびWebページとの通信が、SSLで暗号化されます。
- LDAP認証による安全なログインが可能

1.1.8 サポート

- 24時間連続使用で2年間の長期保証

1.2 ライセンス

この製品は、有償のライセンスを適用することで使用できる機能があります。ライセンスの種類は次のとおりです。

- Remote Operation機能拡張ライセンス

ライセンスの適用状況はログイン後の設定画面で確認できます（2.2 設定画面を表示する [P. 11]参照）。ライセンスの登録については4.11 ライセンスを登録する [P. 26]を参照してください。

2 設定画面の表示

2.1 初回起動時のユーザー登録をおこなう

この製品を初めて起動すると、初期設定ウィザードが表示されます。画面の指示に従って、各項目を設定します。

1. 製品前面の電源ボタン（⏻）を押して、電源を入れます。
   起動準備中は、電源ランプが青色に点滅します。起動するまでに約1分かかります。
   起動すると、電源ランプが青色に点灯します。
2. ブラウザを起動します。
   WebブラウザはMicrosoft Edge79以降を推奨します。
3. アドレスを入力してアクセスします。
   - https://この製品のIPアドレス/
   - http://この製品のIPアドレス/

   初期設定の場合は次のとおりです。
   - https://192.168.0.150/
   - http://192.168.0.150/

   初期設定ウィザードが表示されます。

参考

- HTTPによる通信は暗号化されていないため、第三者にデータが盗聴される危険性があります。セキュアな通信を確保するために、HTTPSを使用することを推奨します。
- HTTPSでアクセスした場合、ブラウザに警告が表示されることがありますが、これは正常な動作です。警告が表示された場合は、「詳細設定」または「詳細情報」をクリックし、「このサイトにアクセスする（安全ではありません）」を選択してください。ログイン後、「認証機関に署名された証明書」を登録することで、警告は表示されなくなります。
- HTTPでアクセスした場合、注意喚起メッセージが表示されます。メッセージの内容を確認し、必要な対処をおこなってください。

4. 画面の指示に従って、各項目を設定します。
   - 「言語」（言語 [P. 8]）
   - 「タイムゾーン」（タイムゾーン [P. 8]）
   - 「日付表示形式」（日付表示形式 [P. 8]）
   - 「時刻表示形式」（時刻表示形式 [P. 8]）
   - 「設定方法」（設定方法 [P. 8]）
   - 「日時」（日時 [P. 9]）
   - 「ユーザーレベル」（ユーザーレベル [P. 9]）
   - 「ユーザー名」（ユーザー名 [P. 9]）
   - 「パスワード」（パスワード [P. 9]）
   - 「パスワード（確認）」（パスワード（確認） [P. 9]）
   - 「IPアドレス（設定方法）」（IPアドレス（設定方法） [P. 9]）
   - 「IPアドレス」（IPアドレス [P. 9]）
   - 「サブネットマスク」（サブネットマスク [P. 10]）
   - 「ゲートウェイ」（ゲートウェイ [P. 10]）
   - 「ホスト名」（ホスト名 [P. 10]）
   - 「プロトコル」（プロトコル [P. 10]）
5. 「適用」をクリックします。
6. 確認ダイアログボックスで「OK」をクリックします。

言語
設定値：「日本語」 / 「English」 / 「Deutsch」
言語を選択します。

タイムゾーン
タイムゾーンを選択します。

日付表示形式
設定値：「yyyy/mm/dd」 / 「Mmm/dd/yyyy」 / 「dd/Mmm/yyyy」 / 「mm/dd/yyyy」 / 「dd/mm/yyyy」 / 「日付表示なし」
日付の表示形式を選択します。

時刻表示形式
設定値：「24時間」 / 「12時間」
時刻の表示形式を選択します。

設定方法
設定値：「自動（PCと同期）」 / 「手動」
時刻の設定方法を選択します。

日時
現在の時刻を設定します。

ユーザーレベル
設定値：「LIVE」 / 「CAMERA CONTROL」 / 「ADMIN」
ユーザーレベルを選択します。
初回ユーザー登録時はユーザーレベルは選択できません（「ADMIN」に固定）。

ユーザー名
ユーザー名を入力します。ユーザー名は以下の条件を満たすように設定してください。
- 1文字以上、16文字以下
- 英数記号文字のみ
- 文字 # & : " < > \ を含まない

次のユーザー名は設定できません。
- 「.」、「..」、「auto-login」

パスワード
パスワードを入力します。第三者に推測されにくいパスワードを設定してください。
- 8文字以上、16文字以下
- 1文字以上の英大文字および英小文字
- 1文字以上の数字
- 文字 \ を含まない

パスワード（確認）
確認のために、同じパスワードを再度入力します。

IPアドレス（設定方法）
設定値：「DHCP」 / 「手動」
IPアドレスの設定方法を選択します。

参考
• DHCPサーバーがある環境の場合、「DHCP」を選択するとIPアドレスが自動的に設定されます。DHCPで割り当てられたIPアドレスは表示されないため、ネットワークスキャンツールなどで確認してください。

IPアドレス
設定値：「0.0.0.1」～「255.255.255.254」
他の機器と重複しないIPアドレスを設定します。

参考
• IPアドレスの初期値は「192.168.0.150」です。この製品、IPデコーディングボックス、IPモニターを複数台設置する場合、重複しないIPアドレスを設定してください。

サブネットマスク

設定値：「0.0.0.1」～「255.255.255.254」

サブネットマスクを設定します。

ゲートウェイ

設定値：「0.0.0.1」～「255.255.255.254」

デフォルトゲートウェイを設定します。

デフォルトゲートウェイがない環境の場合は、「ゲートウェイ」を設定する必要はありません。初期設定のままとするか、空欄としてください。

ホスト名

設定値：英数字、-（ハイフン）（63文字まで）

「IPアドレス（設定方法）」で「DHCP」を選択した場合は、DHCPサーバーに登録するホスト名を入力します。初期設定は「製品名 - MACアドレス」です。DNSへの自動登録はDHCP / DNSサーバー側の設定に依存します。

プロトコル

設定値：「HTTPS」 / 「HTTP & HTTPS」

Webサーバーとの通信プロトコルを選択します。

選択するプロトコルによって、Webブラウザからこの製品にアクセスする際のアドレスが異なります。

- 「HTTPS」：https://この製品のIPアドレス/
- 「HTTP & HTTPS」：
  https://この製品のIPアドレス/　または　http://この製品のIPアドレス/

2.2 設定画面を表示する

1. 製品前面の電源ボタン（⏻）を押します。
   起動準備中は、電源ランプが青色に点滅します。起動するまでに約1分かかります。
   起動すると、電源ランプが青色に点灯します。
2. ブラウザを起動します。
3. アドレスを入力してアクセスします。
   HTTPによる通信は暗号化されていないため、第三者にデータが盗聴される危険性があります。セキュアな通信を確保するために、HTTPSを使用することを推奨します。
   - https://この製品のIPアドレス/
   - http://この製品のIPアドレス/

   初期設定の場合は次のとおりです。
   - https://192.168.0.150/
   - http://192.168.0.150/
4. ユーザー名とパスワードを入力します。
5. 「サインイン」をクリックします。
   設定画面が表示されます。

参考

- 設定画面が表示されない場合は次のアドレスをお試しください。
  - https://この製品のIPアドレス/index.html
  - http://この製品のIPアドレス/index.html



3 ストリーミングゲートウェイ機能の設定

ストリーミングゲートウェイ機能に関連する設定をおこないます。
配信性能は次のとおりです。

通信帯域

- 受信帯域：100 Mbps
- 送信帯域：300 Mbps

リレーモード

カメラからの映像入力		ストリーミングゲートウェイ配信
接続方式	最大接続数	最大接続数（RTSPプロトコル）
RTP over RTSP	48	96

※SRTプロトコルによる配信は、1ストリームの入力に対し1ストリームの出力をサポートします。

マージモード

カメラからの映像入力		ストリーミングゲートウェイ配信
接続方式	最大接続数	最大接続数（RTSPプロトコル）
RTP over RTSP	32	32

※SRTプロトコルによる配信は、各エンコード設定に対し1ストリームの出力をサポートします。

注意点

- 値は参考値です。
- 配信画像が乱れる場合は、次の点を確認してください。
  - カメラからの映像入力のストリーム本数を減らしてください。マージモードの場合は、「ライブ画面」>「アドバンスド」の「非表示カメラ停止」機能を「有効」に設定し、表示されていないページのカメラ通信を止めることで、ストリーム本数を減らすことができます。
  - ビットレートを下げてください。

3.1 配信モードとプロトコルを設定する

1. 「ストリーミングゲートウェイ」>「ストリーミングゲートウェイ」を選択します。
2. 各項目を設定します。
   - 「ストリーミングゲートウェイ」（ストリーミングゲートウェイ [P. 13]）
   - 「プロトコル設定」（プロトコル設定 [P. 13]）
3. 「適用」をクリックします。

3.1.1 ストリーミングゲートウェイ

配信モード

設定値：「マージモード」/「マージモード(低遅延)」※1/「リレーモード」/「オフ」

※1 圧縮形式がH.264の場合、「プロファイル」の設定値は無視されます。

配信モードを選択します。

- 「マージモード」
  複数のカメラの映像を自由にレイアウトした画面を1つのストリームとして配信します。配信設定は2つ設定可能です。
- 「マージモード(低遅延)」
  マージモードの遅延を最小限に抑えたモードです。低遅延が求められる遠隔操作などに適しています。配信設定は1つのみ設定可能です。
  エンコード設定の設定値によっては、指定のフレームレートが出ない場合があります。この場合は解像度かフレームレートを下げて使用してください。
- 「リレーモード」
  個々のカメラから受信した映像をそのまま加工せずに、RTSPまたはSRTプロトコルで再配信します。そのまま加工せず配信するため、エンコード設定は設定できません。

3.1.2 プロトコル設定

RTSP - ユーザー名

設定値：英数字、記号（32文字まで、 " ? / \ { | } ~ % : ` , を除く）

RTSPのユーザー名を入力します。

使用している環境に応じて設定してください。ユーザー名とパスワードが両方空白でも設定できます（どちらが一方だけが空白の場合は設定できません）。空白の場合は、認証無しでストリーミングを配信します。

RTSP - パスワード

設定値：英数字、記号（32文字まで、 " ? / \ { | } ~ % : ` , を除く）

RTSPのパスワードを入力します。

使用している環境に応じて設定してください。ユーザー名とパスワードが両方空白でも設定できます（どちらが一方だけが空白の場合は設定できません）。空白の場合は、認証無しでストリーミングを配信します。

RTSP - ポート
設定値：「554」 / 「1024」～「65535」
RTSPのポート番号を設定します。

RTSP - RTP パケットサイズ
設定値：「400」～「1400」
送信するRTPパケットのサイズを設定します（単位：バイト）。

SRT - 暗号化
設定値：「なし」 / 「AES-128」 / 「AES-192」 / 「AES-256」
暗号化の方式を選択します。

SRT - パスフレーズ
設定値：英数字、記号（10～79文字まで）
パスフレーズを設定します。
使用している環境に応じて設定してください。空白でも設定できます。空白の場合は、認証無しでストリーミングを配信します。

SRT - TS パケットカウント
設定値：「1」～「7」
送信するSRTパケットの中に挿入するTSパケットの数を設定します。

3.2 配信設定をおこなう

1. 「ストリーミングゲートウェイ」>「配信」を選択します。
2. 配信設定をおこなうカメラの編集（）をクリックします。
3. 各項目を設定します。
   - 「カメラ名」（カメラ名 [P. 14]）
   - 「エンコード」（エンコード [P. 15]）
   - 「プロトコル」（プロトコル [P. 15]）
   - 「IPアドレス設定」（IPアドレス設定 [P. 15]）
   - 「ポート」（ポート [P. 15]）
   - 「MPEG2-TS」（MPEG2-TS [P. 15]）
4. 「適用」をクリックします。

カメラ名
「配信モード」が「マージモード」または「マージモード(低遅延)」の場合、
「Live_View」と表示されます。
「配信モード」が「リレーモード」の場合、「カメラ登録」画面と同じカメラ名が表示されます。

エンコード

設定値：「エンコード設定1」 / 「エンコード設定2」

エンコード設定を選択します。エンコード設定については3.3 エンコード設定をおこなう [P. 16]を参照してください。

「配信モード」が「マージモード」または「マージモード(低遅延)」の場合のみ設定できます。

プロトコル

設定値：「RTSP」 / 「SRT」 / 「RTP」

プロトコルを選択します。

- 「RTSP」
  監視カメラなどで広く使われる方式です。通常はこちらを選択してください。
- 「SRT」
  セキュリティや回線品質が重要な場合に使用します。IPデコーディングボックス / IPモニターなどで受信する場合はライセンスが必要となることがあります。
- 「RTP」
  指定したIPアドレスとポートにRTPストリームを配信します。

IPアドレス設定

設定値：「0.0.0.1」～「255.255.255.254」（マルチキャスト範囲「224.0.0.0」～「239.255.255.255」は除く）

IPアドレスを設定します。

「プロトコル」が「RTP」の場合に設定できます。

ポート

設定値：「1024」～「65535」

ポート番号を設定します。

「プロトコル」が「SRT」または「RTP」の場合に設定できます。

MPEG2-TS

設定値：「1024」～「65535」

MPEG2-TS over RTPで配信する場合、「有効にする」をチェックします。

「プロトコル」が「RTSP」の場合に設定できます。

3.3 エンコード設定をおこなう

1. 「ストリーミングゲートウェイ」>「エンコード設定」を選択します。
2. 各項目を設定します。
   - 「圧縮形式」（圧縮形式 [P. 16]）
   - 「解像度」（解像度 [P. 16]）
   - 「映像品質」（映像品質 [P. 16]）
   - 「フレームレート[1-60 fps]」（フレームレート[1-60 fps] [P. 16]）
   - 「ビットレート[256-16384 kbps]」（ビットレート[256-16384 kbps] [P. 16]）
   - 「GOV長さ[1-60]」（GOV長さ[1-60] [P. 16]）
   - 「プロファイル」（プロファイル [P. 16]）
3. 「適用」をクリックします。

圧縮形式
設定値：「H.264」 / 「H.265」
圧縮形式を選択します。

解像度
設定値：「2880x1620」 / 「2560x1600」 / 「1920x1080」 / 「1280x720」 / 「640x360」
解像度を選択します。

映像品質
設定値：「10」～「100」（10単位）
映像品質を設定します。

フレームレート[1-60 fps]
設定値：「1」～「60」
フレームレート（映像の更新間隔）を設定します。

ビットレート[256-16384 kbps]
設定値：「256」～「16384」
ビットレートを設定します。

GOV長さ[1-60]
設定値：「1」～「60」
Ｉフレーム間隔を設定します。

プロファイル
設定値：「ベースライン」 / 「メイン」 / 「ハイ」
プロファイルを選択します。「圧縮形式」が「H.265」の場合、「メイン」に設定されます。

4 システムの設定

システムの日付や時刻、ネットワークの設定やメンテナンスをおこないます。

4.1 基本情報の確認

この製品の各設定の現在の状態を一覧で表示します。



ライブプレビュー

現在のライブ画面を静止画で確認できます。画像をクリックすると、ライブストリーミング画面が開きます（6.10 ライブストリーミングを確認する [P. 64]）。

システム情報

- モデル
- S/N（製造番号）
- ソフトウェアバージョン
- 拡張機能
- セキュリティレベル（セキュリティレベル [P. 18]）
- MACアドレス
- 通信速度

システム状態

- 現在の状態
- ストリーミングゲートウェイ

ネットワーク

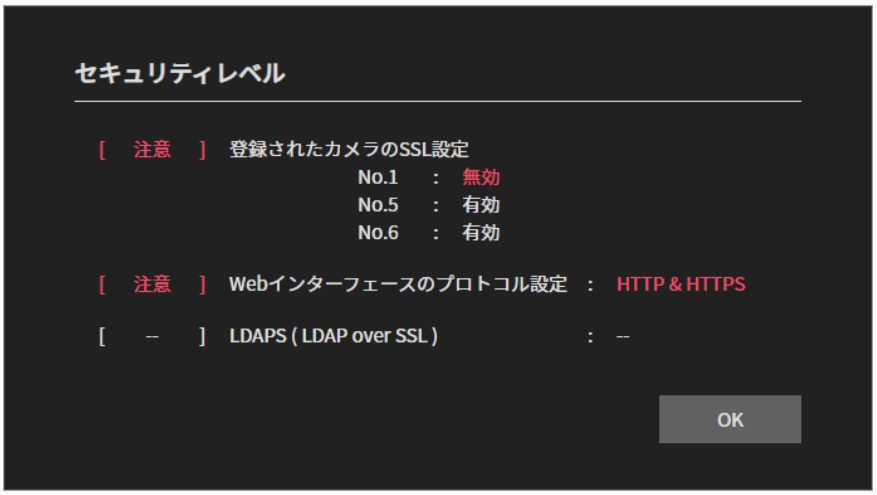
- IPアドレス（設定方法）
- IPアドレス
- サブネットマスク
- ゲートウェイ

- ホスト名
- DNS
- プライマリーサーバーアドレス
- セカンダリーサーバーアドレス
- NTP
- サーバーアドレス

セキュリティレベル

この製品がセキュアな設定になっているかを確認できます。セキュア通信に関連する設定が注意を必要とする状態の場合は「セキュリティレベル」に「低」と表示されます。セキュアな設定になっている場合は「高」と表示されます。

1. 「基本情報」を選択します。
2. 「セキュリティレベル」を確認します。設定の詳細を確認したい場合は「詳細」をクリックします。
   「セキュリティレベル」ダイアログボックスが表示され、セキュア通信に関連する項目の現在の設定が確認できます。



登録されたカメラのSSL設定

登録されたカメラのSSL設定が一覧で表示されます。SSL設定が有効の場合は「有効」、無効の場合は「無効」、SSL設定ができないプロトコルの場合は「--」が表示されます。

「無効」と表示されたカメラが1つでも存在する場合、注意が必要な状態とみなされます（[注意]と表示されます）。設定については、5.2 カメラを手動で登録する [P. 39]を参照してください。

Webインターフェースのプロトコル設定

「Webインターフェース」の「プロトコル」が「HTTPS」に設定されている場合、[OK]と表示されます。それ以外の設定になっている場合、注意が必要な状態とみなされます（[注意]と表示されます）。設定については、プロトコル [P. 21]を参照してください。

LDAPS（LDAPS over SSL）
「LDAP設定」の「SSL」が有効な場合、[OK]と表示されます。無効な場合、注意が必要な状態とみなされます（[注意]と表示されます）。設定については、SSL [P. 73]を参照してください。

4.2 ネットワーク設定をおこなう

IPアドレスやDNS、NTPなどのネットワークの設定をおこないます。

1. 「システム」>「ネットワーク」を選択します。
2. 各項目を設定します。
   - 「ネットワーク」（ネットワーク [P. 19]）
   - 「DNS」（DNS [P. 20]）
   - 「NTP」（NTP [P. 20]）
3. 「適用」をクリックします。

4.2.1 ネットワーク

IPアドレス（設定方法）
設定値：「DHCP」/「手動」
IPアドレスの設定方法を選択します。

参考
• DHCPサーバーがある環境の場合、「DHCP」を選択するとIPアドレスが自動的に設定されます。DHCPで割り当てられたIPアドレスは表示されないため、ネットワークスキャンツールなどで確認してください。

IPアドレス
設定値：「0.0.0.1」～「255.255.255.254」
他の機器と重複しないIPアドレスを設定します。

参考
• IPアドレスの初期値は「192.168.0.150」です。この製品、IPデコーディングボックス、IPモニターを複数台設置する場合、重複しないIPアドレスを設定してください。

サブネットマスク
設定値：「0.0.0.1」～「255.255.255.254」
サブネットマスクを設定します。

ゲートウェイ
設定値：「0.0.0.1」～「255.255.255.254」
デフォルトゲートウェイを設定します。

デフォルトゲートウェイがない環境の場合は、「ゲートウェイ」を設定する必要はありません。初期設定のままとするか、空欄としてください。

ホスト名

設定値：英数字、-（ハイフン）（63文字まで）

「IPアドレス（設定方法）」で「DHCP」を選択した場合は、DHCPサーバーに登録するホスト名を入力します。初期設定は「製品名 - MACアドレス」です。DNSへの自動登録はDHCP / DNSサーバー側の設定に依存します。

4.2.2 DNS

DNS

設定値：「自動」/「手動」

（「ネットワーク」の「IPアドレス」で「手動」を選択した場合のみ）「DNS」を設定します。

プライマリーサーバーアドレス

設定値：「0.0.0.1」～「255.255.255.254」

「DNS」で「手動」を選択した場合は、「プライマリーサーバーアドレス」を設定します。

セカンダリーサーバーアドレス

設定値：「0.0.0.1」～「255.255.255.254」

「DNS」で「手動」を選択した場合は、「セカンダリーサーバーアドレス」を設定します。

4.2.3 NTP

NTP

NTPサーバーを利用する場合は、「有効にする」をチェックします。

サーバーアドレス

NTPの「有効にする」をチェックした場合は、NTPサーバーのアドレスを設定します。

英数字、記号で入力します。

4.3 通信設定をおこなう

Webインターフェース機能や通信エラー検知を設定します。

1. 「システム」>「通信」を選択します。
2. 各項目を設定します。
   - 「通信エラー検知」（通信エラー検知 [P. 21]）
   - 「プロトコル」（プロトコル [P. 21]）
   - 「HTTPポート」（HTTPポート [P. 21]）
   - 「認証方式」（認証方式 [P. 21]）
   - 「HTTPSポート」（HTTPSポート [P. 22]）
3. 「適用」をクリックします。

通信エラー検知

映像データの受信が停止した場合のメッセージ表示タイミングを設定します。

- 「有効にする」をチェック
  映像データの受信が停止してから数秒以内に、ライブ画面上に赤枠のアラートメッセージが表示されます。通信が再開するとアラート表示が解除され、再度動画が表示されます。
- 「有効にする」をチェックしない
  映像データの受信が停止してから約10秒経過後、通信エラーのメッセージが表示されます。

プロトコル

設定値：「HTTP」/「HTTPS」/「HTTP & HTTPS」

Webサーバーとの通信プロトコルを選択します。

選択するプロトコルによって、Webブラウザからこの製品にアクセスする際のアドレスが異なります。

- 「HTTP」：http://この製品のIPアドレス/
- 「HTTPS」：https://この製品のIPアドレス/
- 「HTTP & HTTPS」：
  https://この製品のIPアドレス/　または　http://この製品のIPアドレス/

HTTPポート

設定値：「80」/「1024」～「65535」

WebインターフェースのHTTPポートを設定します。

認証方式

設定値：「Digest認証」/「BASIC認証」

Webインターフェースの認証方式を設定します。

「ユーザーアカウント」>「タイプ」で「LDAP」を選択した場合は設定できません。

HTTPSポート
設定値：「443」 / 「1024」～「65535」
WebインターフェースのHTTPSポートを設定します。

4.4 日付と時刻を設定する

注意点
• 正しい日付を設定してください。正しい日付が設定されていない場合、証明書検証時のセキュア通信失敗の原因になります。カメラとの通信やLDAP設定でSSLを使用する場合、または、802.1Xを使用する場合は、長時間電源を入れない状態を避けるか、NTPを使用して正しい時刻が常に設定されるようにしてください。 • 「ネットワーク」の「NTP」が有効な場合、日付と時刻を手動で設定することはできません。手動で設定する場合は、「NTP」を無効にしてください（NTP [P. 20]参照）。 • 1週間以上電源に接続していない場合は、製品の日付と時間が正確に表示されなくなります。その場合は、日時を設定し直してください

1. 「システム」>「日時」を選択します。
2. 各項目を設定します。
   - 「現在時刻」（現在時刻 [P. 22]）
   - 「日付/時間表示設定」（日付/時間表示設定 [P. 22]）
   - 「タイムゾーン設定」（タイムゾーン設定 [P. 23]）
   - 「時刻設定」（時刻設定 [P. 23]）
3. 「適用」をクリックします。

4.4.1 現在時刻

現在時刻
この製品の現在の日付と時刻が表示されます。

PCの現在時刻
「PCと同期」をクリックすると、コンピュータの現在の日付と時刻がこの製品に設定されます。

4.4.2 日付/時間表示設定

日付表示形式
設定値：「yyyy/mm/dd」 / 「Mmm/dd/yyyy」 / 「dd/Mmm/yyyy」 / 「mm/dd/yyyy」 / 「dd/mm/yyyy」 / 「日付表示なし」
日付の表示形式を選択します。

時刻表示形式
設定値：「24時間」 / 「12時間」
時刻の表示形式を選択します。

4.4.3 タイムゾーン設定

タイムゾーン
タイムゾーンを選択します。

4.4.4 時刻設定

日時
現在の時刻を設定します。

4.5 言語を設定する

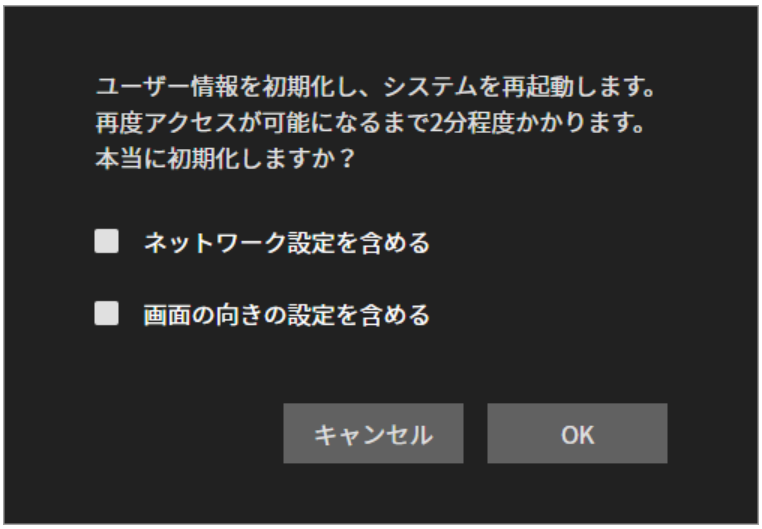
1. 「システム」>「言語」を選択します。
2. 各項目を設定します。
   – 「言語」（言語 [P. 23]）
3. 「適用」をクリックします。

言語
設定値：「日本語」 / 「English」 / 「Deutsch」
言語を選択します。

4.6 システムを初期化する

システムログ、操作ログ、現在時刻、タイムゾーン設定、ライセンス認証情報、ソフトウェアバージョン以外の設定を初期設定に戻します。

1. 「システム」>「メンテナンス」を選択します。
2. 「初期化」の「実行」をクリックします。
3. 初期化の対象にネットワーク設定を含める場合は、「ネットワーク設定を含める」にチェックします。



4. 「OK」をクリックします。

4.7 システムを再起動する

1. 「システム」>「メンテナンス」を選択します。
2. 「再起動 」の「実行」をクリックします。
3. 「OK」をクリックします。

4.8 ソフトウェアを更新する

ソフトウェアのバージョンアップをおこなうことができます。バージョンアップ用のファイルは事前に当社Webサイト（www.eizo.co.jp）からダウンロードしてください。システムの安定稼働のために、最新のソフトウェアを使用することを推奨します。古いバージョンに戻すことはできません。

1. 「システム」>「メンテナンス」を選択します。
2. 「ソフトウェア更新」>「ファイル」の「参照」をクリックします。
3. ソフトウェアファイル（拡張子：duraup4）を選択します。
4. 「実行」をクリックします。
5. 確認ダイアログボックスで「OK」をクリックします。
   処理が開始されます。
   処理中は、電源ランプが赤色に点滅します。電源を切らないでください。ソフトウェアの更新には10分程度かかります。

4.9 システムの設定情報を保存する

設定情報をファイルに書き出すことができます。書き出したファイルは、設定情報を移行するために使用できます。

1. 「システム」>「メンテナンス」を選択します。
2. 「設定情報の移行」>「設定情報」の「保存」をクリックします。
3. 「設定情報の保存」ダイアログボックスで「パスワード」を入力し、ファイルにパスワードを設定します。
4. 「OK」をクリックします。
5. ファイルの保存場所を指定します。
   設定情報ファイルが保存されます。

注意点

- 一部の設定は保存できません。
- 保存時に指定したパスワードを忘れてしまった場合、設定ファイルを読み込むことができなくなります。

参考

- 保存ファイル名：（製品名）_Backup（保存日時）.duraconf2

4.10 システムの設定情報を読み込む

設定情報をファイルから読み込みます。

注意点
• サーバー証明書、クライアント証明書を使用する設定は読み込みません。 • 設定情報を保存した環境と設定情報を読み込む環境でネットワーク設定または通信設定が異なる場合は、Webブラウザからこの製品にアクセスできなくなる可能性があります。

1. 「システム」>「メンテナンス」を選択します。
2. 「設定情報の移行」>「設定情報」の「読み込み」をクリックします。
3. 設定情報ファイルを選択し、ファイルに設定したパスワードを入力します。
   「ネットワーク設定」はチェックしないでください。
4. 「OK」をクリックします。
5. 確認ダイアログボックスで「OK」をクリックします。
   処理が開始されます。
   ブラウザを閉じ、2分後に再度アクセスしてください。

4.11 ライセンスを登録する

機能拡張ライセンスを登録すると、使用できる機能が増えます。

1. 「システム」>「メンテナンス」を選択します。
2. 「ライセンス認証」>「拡張機能」の「認証」をクリックします。
3. 「参照」をクリックし、ライセンスファイル（拡張子：duralic）を選択します。
4. 「OK」をクリックします。
   処理が開始されます。
   ブラウザを閉じ、2分後に再度アクセスしてください。

参考
• 「解除」をクリックすると、追加登録しているすべてのライセンスが解除されます。

4.12 イベントルールを設定する

イベントルールとは、特定のイベントをトリガーに特定のアクションを実行する機能です。

参考
• 合計で32個のイベントルールを設定することができます。

1. 「イベントルール」を選択します。
2. イベントルールを登録する番号の編集（）をクリックします。
3. 各項目を設定します。
   - 「名前」（名前 [P. 27]）
   - 「状態」（状態 [P. 27]）
   - 「イベント」（イベント [P. 27]）
   - 「アクション」（アクション [P. 29]）
4. 「OK」をクリックします。

名前

設定値：任意の文字（32文字まで）
イベントルールの名前を入力します。

状態

イベントルールを有効にする場合は、「有効にする」をチェックします。

イベント

設定値：「アラート受信」※1 /「タイマー期限切れ」 /「ビデオ出力状態の変化」※2 /「補助コマンド」※2 /「システム起動」 /「ネットワーク リンクアップ」 /「スケジュール」 /「ストリームエラーの検知」 /「リモコンのイベントボタン」※2
トリガーにするイベントを選択します。イベントにより設定できる項目が異なります。
※1 外部機器からアラート表示用のHTTPコマンドを送信する必要があります。
※2 この製品では動作しません。

- 「アラート受信」
  HTTPアラートコマンドを受信した。
  詳細は、「イベント」に「アラート受信」を選択した場合 [P. 28]を参照してください。
- 「タイマー期限切れ」
  「アクション」で設定したタイマーの期限が切れた。
  詳細は、「イベント」に「タイマー期限切れ」を選択した場合 [P. 28]を参照してください。
- 「システム起動」
  主電源がオンになった。

- 「ネットワーク リンクアップ」
  ネットワーク通信が可能な状態になった。
- 「スケジュール」
  設定した曜日、時刻になった。
  詳細は、「イベント」に「スケジュール」を選択した場合 [P. 28]を参照してください。
- 「ストリームエラーの検知」
  ライブ画面に表示されているカメラからのデータ受信が一定時間止まった。
  詳細は、「イベント」に「ストリームエラーの検知」を選択した場合 [P. 29]を参照してください。

「イベント」に「アラート受信」を選択した場合

カメラNo.
設定値：「指定なし」/「1」～「48」
アラートを受信するカメラを選択します。

トリガータイプ
設定値：「指定なし」/「オン」/「オフ」
イベントの発生タイミングを選択します。
アラート表示をトリガーとする場合には「オン」を、非表示をトリガーとする場合には「オフ」を選択します。

ID
設定値：「指定なし」/「1」～「16」
ID[※1]を指定します。
※1 「トリガータイプ」が「指定なし」または「オン」の場合に設定できます。

「イベント」に「タイマー期限切れ」を選択した場合

タイマーNo.
設定値：「1」～「8」
タイマーの番号を選択します。

「イベント」に「スケジュール」を選択した場合

作動時刻
設定値：「00:00」～「23:59」
時刻を設定します。

作動曜日
設定値：「月」/「火」/「水」/「木」/「金」/「土」/「日」
曜日を選択します。複数選択ができます。

「イベント」に「ストリームエラーの検知」を選択した場合

カメラNo.
設定値：「指定なし」/「1」～「48」
検知対象にするカメラを選択します。検知対象で、かつ、現在ライブ画面に表示されていないカメラでストリームエラーが発生した場合は、該当のカメラがライブ画面に表示されたタイミングで検知されます。

検知感度
設定値：「低」/「高」
映像データの受信が停止した後、通信失敗と判定するまでの時間を設定します。
- 「低」
  映像データの受信が約10秒間停止した場合、通信失敗と判定。
- 「高」
  映像データの受信が数秒間停止した場合、通信失敗と判定。

アクション
設定値：「通知」/「電源操作」/「タイマースタート」/「SNMPトラップ」
イベント発生時に実行するアクションを選択します。アクションにより設定できる項目が異なります。
- 「通知」（「アクション」に「通知」を選択した場合 [P. 29]）
- 「電源操作」（「アクション」に「電源操作」を選択した場合 [P. 30]）
- 「タイマースタート」（「アクション」に「タイマースタート」を選択した場合 [P. 30]）
- 「SNMPトラップ」（「アクション」に「SNMPトラップ」を選択した場合 [P. 31]）

「アクション」に「通知」を選択した場合

プロトコル
設定値：「HTTP」/「HTTPS」
通信プロトコルを選択します。

メソッド
設定値：「GET」/「PUT」/「POST」
リクエストで使用するメソッドを選択します。

URL
設定値：英数字、記号（255文字まで）
通知先のURLを入力します。

ユーザー名
設定値：英数字、記号（32文字まで）
URLにアクセスするときのユーザー名を入力します。

パスワード
設定値：英数字、記号（32文字まで）
URLにアクセスするときのパスワードを入力します。

証明書の検証
サーバー証明書の検証をおこなう場合は、「有効にする」をチェックします。※1
※1 HTTPSを選択したときにのみ表示します。

リクエストボディ(JSON)
設定値：英数字、記号（4096文字まで）
「メソッド」が「PUT」または「POST」の場合、送信するJSON形式のリクエストボディを入力します。

テスト
設定値：「実行」
設定したURLにアクセスできるか確認するためのテストを実行します。

参考
• 再起動を伴うAPIをURLに指定した場合、通知は正常に実行されますが、再起動により応答が返らないため、結果は「失敗」と表示されます。実際のアクションの動作には影響ありません。

「アクション」に「電源操作」を選択した場合

電源状態
設定値：「オン」/「クイック電源オフ」/「再起動」
電源状態を選択します。

「アクション」に「タイマースタート」を選択した場合

タイマーNo.
設定値：「1」～「8」
タイマーの番号を選択します。

設定時間 - 分
設定値：「0」～「60」
「分」を設定します。

設定時間 - 秒
設定値：「0」～「59」
「秒」を設定します。

「アクション」に「SNMPトラップ」を選択した場合
事前にSNMPの「トラップ アドレス」と「トラップ コミュニティ」を設定してください。

トラップ名
設定値：Unicode印刷可能文字（128文字まで）
トラップの名前を入力します。

トラップメッセージ
設定値：Unicode印刷可能文字（128文字まで）
トラップのメッセージを入力します。

テスト
設定値：「実行」
SNMPトラップの送信テストをおこないます。

4.13 サーバー証明書を登録する

サーバー証明書は、Webブラウザからこの製品にHTTPSでアクセスする際に使用します。

注意点
• この製品では、証明書署名要求（CSR）の作成はできません。

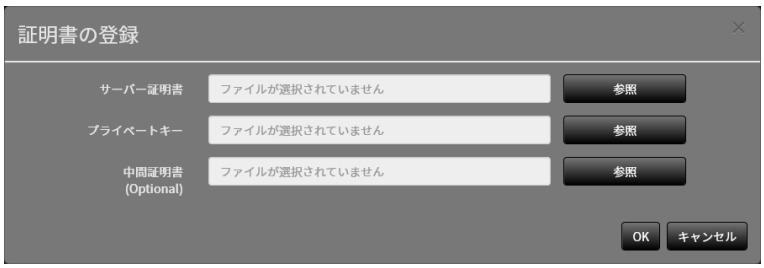
1. 「システム」>「証明書」を選択します。
2. 「サーバー証明書」>「証明書のタイプ」リストボックスから、証明書のタイプを選択します。
   – 「自己証明書」（自己証明書 [P. 32]）
   – 「認証機関に署名された証明書」（認証機関に署名された証明書 [P. 32]）
3. 「適用」をクリックします。

自己証明書

「自己証明書」の「更新」をクリックし、証明書を更新してから選択してください。

認証機関に署名された証明書

「認証機関に署名された証明書」の「登録」をクリックし、証明書を登録してから選択してください。登録には、認証機関から発行される情報の登録が必要です。



4.14 ルート証明書を登録する

ルート証明書は次の場合に使用します。

- カメラへのHTTPS接続
- IEEE802.1X認証
- LDAPサーバーへのLDAPS接続

注意点
• この製品にはルート証明書はプリインストールされていません。

1. 「システム」>「証明書」を選択します。
2. 「ルート証明書」の「登録」をクリックします。
3. 「参照」をクリックし、ルート証明書を選択します。
4. 「OK」をクリックします。

4.15 IEEE 802.1X認証を設定する

参考
• この製品はEAPOL Version2（IEEE802.1X-2004）で動作します。

1. 「システム」>「802.1X」を選択します。
2. 各項目を設定します。
   - 「認証」（認証 [P. 33]）
   - 「証明書の検証」（証明書の検証 [P. 33]）
   - 「Identity」（Identity [P. 33]）
3. 「適用」をクリックします。

認証
設定値：「オフ」/「EAP-TLS」/「EAP-PEAP」
認証方法を選択します。

「認証」が「EAP-TLS」の場合
「クライアント証明書」の「登録」をクリックし、各項目を設定します。

クライアント証明書
クライアント証明書を指定します。

プライベートキー
プライベートキーを指定します。

「認証」が「EAP-PEAP」の場合
「クライアント証明書」の「登録」をクリックし、各項目を設定します。

パスワード
設定値：英数字、記号（32文字まで）
パスワードを入力します。

証明書の検証
サーバー証明書の検証をおこなう場合、「証明書の検証」の「有効にする」をチェックします。認証サーバーのルート証明書が、この製品の「システム」>「証明書」>「ルート証明書」に登録されている必要があります。

Identity
設定値：英数字、記号（32文字まで）
ユーザーの名称を入力します。

4.16 SNMPを設定する

SNMPによる情報取得や、イベントルールのアクションとしてSNMPトラップを設定できます。

1. 「システム」>「SNMP」を選択します。
2. 「バージョン」リストボックスから、バージョンを選択します。
3. 「バージョン」が「v1 & v2c」の場合、各項目を設定します。
   - 「読み取りコミュニティ」（読み取りコミュニティ [P. 34]）
   - 「トラップ アドレス」（トラップ アドレス [P. 34]）
   - 「トラップ コミュニティ」（トラップ コミュニティ [P. 34]）
4. 「適用」をクリックします。

注意点

- 「読み取りコミュニティ」が空欄の場合、SNMPによる情報取得はできません。
- 「トラップ アドレス」と「トラップ コミュニティ」が空欄の場合、イベントルールのSNMPトラップは動作しません。

読み取りコミュニティ

設定値：英数字、記号（32文字まで）

読み取りコミュニティを入力します。

トラップ アドレス

設定値：「0.0.0.1」～「255.255.255.254」

イベントルールのSNMPトラップ通知先アドレスを入力します。

トラップ コミュニティ

設定値：英数字、記号（32文字まで）

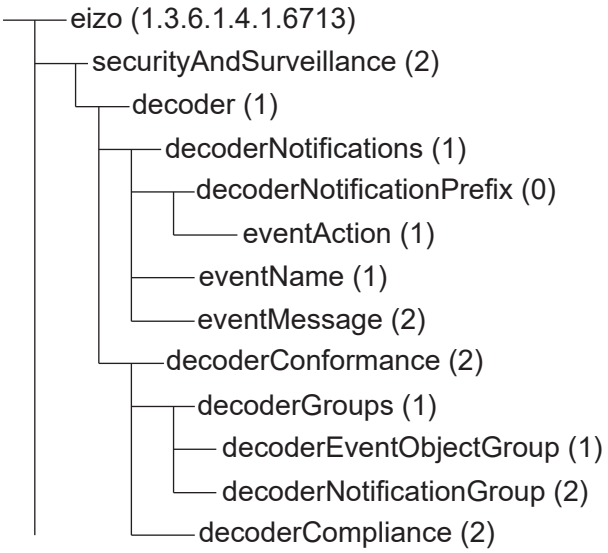
トラップコミュニティを入力します。

4.16.1 EIZO MIB構成

この製品でSNMPを利用する場合、下記のモジュールをSNMPマネージャーにインポートする必要があります。MIBファイルは事前に当社Webサイト（www.eizo.co.jp）からダウンロードしてください。

- EIZO-ROOT-MIB
- EIZO-SECURITY-MIB
- EIZO-DECODER-MIB

MIB Tree



名前	OID	TYPE	SYNTAX	MAX-ACCESS	説明
eventAction	.6713.2.1.1.0.1	NOTIFICATION-TYPE	ー	ー	アクション実行時のトラップ
eventName	.6713.2.1.1.1	OBJECT-TYPE	SnmpAdminString	accessibleformotify	イベントルールで定義したイベント名
eventMessage	.6713.2.1.1.2	OBJECT-TYPE	SnmpAdminString	accessibleformotify	イベントルールで定義したイベントメッセージ

4.17 IPアドレスフィルターを設定する

システムにアクセスできるコンピュータのIPアドレスを制限します。

注意点
• IPアドレスフィルター設定が正しくない場合、この製品にアクセスできなくなります。 • 「IPアドレスフィルター」が「オン」の場合、カメラ探索でカメラは見つかりません。 • 「IPアドレスフィルター」が「オン」の場合でも、カメラ映像を受信するための通信は制限されません。

1. 「システム」>「IPアドレスフィルター」を選択します。
2. 各項目を設定します。
   – 「IPアドレスフィルター」（IPアドレスフィルター [P. 36]）
   – 「許可IPアドレス設定」（許可IPアドレス設定 [P. 36]）
3. 「適用」をクリックします。

IPアドレスフィルター

IPアドレスフィルターを使用する場合、「有効にする」をチェックします。

許可IPアドレス設定

設定値：「0.0.0.1」～「255.255.255.254 / 32」

アクセスを許可するコンピュータのIPアドレスを入力します。IPアドレスを範囲で指定する場合はCIDR表記で入力します。

4.18 ログを保存する

操作ログおよびシステムログを保存します。

システムの現在や過去の状況を確認したり、問題が起きたときに原因を探ったりするときに使います。

1. 「トラブルシュート」>「ログ」を選択します。
2. ログを保存したい項目の「保存」をクリックします。

4.19 基本情報を保存する

この製品の基本情報を表示します。システムの現在の設定を確認したり、問題が起きたときに原因を探ったりするときに使うことができます。

1. 「トラブルシュート」>「ログ」を選択します。
2. 「基本情報」の「保存」をクリックします。

4.20 カメラの接続確認をおこなう

ネットワークカメラの接続状態を確認することができます。

1. 「トラブルシュート」>「ネットワーク状態確認」を選択します。
2. 「カメラ名」リストボックスから、カメラを選択します。
3. 「ping」または「traceroute」の「実行」をクリックします。
   接続状態が表示されます。

4.21 ネットワークの接続状態を確認する

1. 「トラブルシュート」>「ネットワーク状態確認」を選択します。
   現在の通信帯域（送信、受信）が表示されます。
2. 「現在の状態」を選択します。
   接続状態が表示されます。

参考
• 「再接続」を選択すると、ネットワーク状態がリセットされます。接続状態は表示されません。

4.22 その他の設定をおこなう

1. 「システム」>「ハードウェア」を選択します。
2. 各項目を設定します。
   – 「操作ロック」（操作ロック [P. 37]）
   – 「電源ランプ」（電源ランプ [P. 37]）
3. 「適用」をクリックします。

操作ロック

製品前面のボタン操作をロックする場合、「有効にする」をチェックします。

電源ランプ

通常動作時の電源ランプ（青）を点灯する場合、「有効にする」をチェックします。

4.23 Qognify社のVMSと連携する

Qognify社のVMS（Video Management Software）から直接この製品を制御することができます。

詳細は「“User’s Manual” for Video Wall Integration for Qognify」を参照してください。
「“User’s Manual” for Video Wall Integration for Qognify」は当社Webサイト（www.eizoglobal.com）からダウンロードできます。

5 カメラの管理

カメラの登録や機能設定などをおこない、システムへ反映します。

5.1 カメラを自動検出して登録する

ネットワークに接続されたカメラを自動検出し、登録することができます。

注意点

- 次のカメラやビデオエンコーダは、手動で登録する必要があります（5.2 カメラを手動で登録する [P. 39]参照）。
  - 自動検出できないカメラ
    - 異なるサブネット上のカメラは自動検出できません。
    - カメラによっては自動検出を拒否する設定や、電源を入れてから一定時間だけ自動検出を許可する設定があります。
  - 複数のストリームで映像を配信する魚眼 / パノラマカメラ
  - 複数のカメラを接続しているビデオエンコーダ

1. 「カメラ」>「カメラ登録」を選択します。
2. 「カメラ自動検出」をクリックします。
3. 各項目を設定します。
   - 「プロトコル」（プロトコル [P. 38]）
   - 「ユーザー名」（ユーザー名 [P. 39]）
   - 「パスワード」（パスワード [P. 39]）
4. 「OK」をクリックします。
   検出されたカメラが一覧表示されます。
   カメラを自動検出できるかは、カメラやネットワークに依存します。一覧に表示されないカメラは手動で登録してください。
5. 登録するカメラをチェックし、「追加」をクリックします。
6. 「適用」をクリックします。
7. 確認ダイアログボックスで「OK」をクリックします。

プロトコル

カメラを制御するプロトコルを選択します。

- 「ONVIF」※1
  ONVIF Profile S準拠のカメラ
- 「AXIS」
  アクシス社のカメラ（VAPIX®）
- 「Panasonic/i-PRO」
  パナソニック社/i-PRO社のカメラ

※1 「プロトコル」が「ONVIF」の場合、「メディアタイプ」は「Media1」になります。

ユーザー名
カメラのユーザー名を入力します。管理者権限を持つユーザーが必要です。

パスワード
カメラのパスワードを入力します。

5.2 カメラを手動で登録する

次のカメラやビデオエンコーダは、手動で登録する必要があります。

- 自動検出できないカメラ
- 異なる映像を複数のストリームで配信する魚眼 / パノラマカメラ
  - 同じIPアドレスで魚眼 / パノラマカメラを複数台登録し、表示するストリームを指定します。
- 複数のカメラを接続しているビデオエンコーダ
  - 同じIPアドレスでビデオエンコーダを複数台登録し、表示するストリームを指定します。パナソニック社 / i-PRO社の複数チャンネル対応ビデオエンコーダの場合、「チャンネル」で表示するカメラを指定します。

注意点
• カメラを手動で登録する場合も、ネットワークにカメラが接続されている必要があります。

1. 「カメラ」>「カメラ登録」を選択します。
2. 登録する位置番号の編集（）をクリックします。
3. 各項目を設定します。
   プロトコルによって表示項目が変わります。はじめに「プロトコル」（プロトコル [P. 40]参照）を選択してください。
   - 共通項目（共通項目 [P. 40]）
   - 「ONVIF」（ONVIF [P. 40]）
   - 「AXIS」（AXIS [P. 42]）
   - 「Panasonic/i-PRO」（Panasonic/i-PRO [P. 43]）
   - 「EIZO Streaming Gateway」（EIZO Streaming Gateway [P. 44]）
   - 「DirectUri」（DirectUri [P. 45]）
   - 「SRT」（SRT [P. 46]）
   - 「静止画ファイル」（静止画ファイル [P. 47]）
   - 「Qognify」（Qognify [P. 47]）
4. 「OK」をクリックします。
5. 「適用」をクリックします。

5.2.1 共通項目

プロトコル

設定値：「ONVIF」 / 「AXIS」 / 「Panasonic/i-PRO」 / 「EIZO Streaming Gateway」 / 「DirectUri」 / 「SRT」 / 「静止画ファイル」 / 「Qognify」

カメラを制御するプロトコルを選択します。

- 「ONVIF」
  ONVIF Profile S準拠のカメラ
- 「AXIS」
  アクシス社のカメラ（VAPIX）
- 「Panasonic/i-PRO」
  パナソニック社 / i-PRO社のカメラ
- 「EIZO Streaming Gateway」
  ストリーミングゲートウェイ機能が有効な製品に接続する場合に選択します。
- 「DirectUri」
  RTSPストリームURI（rtsp://から始まるURI）、またはRTPストリームURI（rtp://から始まるURI）に接続する場合に選択します。
- 「SRT」
  SRTストリームURIに接続する場合に選択します。
- 「静止画ファイル」
  アップロードした静止画を指定する場合に選択します。
- 「Qognify」
  Qognify VMSと連携する場合に選択します。

カメラ名

設定値：任意の文字（100文字まで）

カメラ名を入力します。カメラ名に改行を入れる場合は、改行したい位置に\nを入力してください。

「IPアドレス」、「ポート」、「ユーザー名」、「パスワード」を入力して「カメラ名取得」をクリックすると、カメラ側からカメラ名を取得できます。

5.2.2 ONVIF

IPアドレス

設定値：「0.0.0.1」～「255.255.255.254」

カメラのIPアドレスを入力します。

「Ping」をクリックすると、カメラに対して接続テストをおこないます。

ポート

設定値：「1」～「65535」

カメラのポート番号を入力します。

一般的なポート番号は、「80」（SSLが有効な場合は「443」）です。

SSL
セキュア通信をおこないます。
カメラにサーバー証明書が設定されている必要があります。
HTTPによる通信は暗号化されていないため、第三者にデータが盗聴される危険性があります。セキュアな通信を確保するために、SSL（HTTPS）を使用することを推奨します。

証明書の検証
SSL通信時の証明書の検証をおこないます。
カメラのルート証明書が、「証明書」>「ルート証明書」に登録されている必要があります。

ユーザー名
設定値：英数字、記号（32文字まで）
カメラのユーザー名を入力します。管理者権限を持つユーザーが必要です。

パスワード
設定値：英数字、記号（32文字まで）
カメラのパスワードを入力します。

メディアタイプ
設定値：「Media1」/「Media2」
メディアタイプを選択します。
- 「Media1」（初期設定）
  H.264、MJPEGのストリームに接続する場合に選択します。
- 「Media2」
  H.265、H.264のストリームに接続する場合に選択します。カメラがONVIF Profile SとONVIF Profile Tの両方に準拠している必要があります。

メディアプロファイル
設定値：カメラにより異なる
メディアプロファイルを選択することで、接続するストリームを指定します。「プロファイル取得」をクリックすると、カメラ側からプロファイルの一覧を取得します。

配信方式
設定値：「ユニキャスト」/「マルチキャスト」
配信方式を選択します。

接続方式
設定値：「RTP over UDP」/「RTP over RTSP」
カメラ映像の接続方式を選択します。

5.2.3 AXIS

IPアドレス
設定値：「0.0.0.1」～「255.255.255.254」
カメラのIPアドレスを入力します。
「Ping」をクリックすると、カメラに対して接続テストをおこないます。

ポート
設定値：「1」～「65535」
カメラのポート番号を入力します。
一般的なポート番号は、「80」（SSLが有効な場合は「443」）です。

SSL
セキュア通信をおこないます。
カメラにサーバー証明書が設定されている必要があります。
HTTPによる通信は暗号化されていないため、第三者にデータが盗聴される危険性があります。セキュアな通信を確保するために、SSL（HTTPS）を使用することを推奨します。

証明書の検証
SSL通信時の証明書の検証をおこないます。
カメラのルート証明書が、「証明書」>「ルート証明書」に登録されている必要があります。

ユーザー名
設定値：英数字、記号（32文字まで）
カメラのユーザー名を入力します。管理者権限を持つユーザーが必要です。

パスワード
設定値：英数字、記号（32文字まで）
カメラのパスワードを入力します。

ビデオストリーム
設定値：カメラにより異なる
ストリームのビューエリアを選択します。「ストリーム取得」をクリックすると、カメラ側からビューエリアの一覧を取得できます。
ビューエリアは、全体画像の一部をストリーム配信する場合に使用します。詳細は、カメラの取扱説明書を参照してください。

ストリームプロファイル
設定値：カメラにより異なる
ストリームプロファイルを選択することで、接続するストリームを指定します。「プロファイル取得」をクリックすると、カメラ側からプロファイルの一覧を取得できます。

カメラ側にプロファイルが登録されていない場合、この製品はカメラに「EIZO_Profile」プロファイルを自動的に登録します。

配信方式
設定値：「ユニキャスト」/「マルチキャスト」
配信方式を選択します。

接続方式
設定値：「RTP over UDP」/「RTP over RTSP」
カメラ映像の接続方式を選択します。

5.2.4 Panasonic/i-PRO

この製品からユニキャスト / マルチキャストを設定することはできません。カメラ側で配信方式を変更してください。

IPアドレス
設定値：「0.0.0.1」～「255.255.255.254」
カメラのIPアドレスを入力します。
「Ping」をクリックすると、カメラに対して接続テストをおこないます。

ポート
設定値：「1」～「65535」
カメラのポート番号を入力します。
一般的なポート番号は、「80」（SSLが有効な場合は「443」）です。

SSL
セキュア通信をおこないます。
カメラにサーバー証明書が設定されている必要があります。
HTTPによる通信は暗号化されていないため、第三者にデータが盗聴される危険性があります。セキュアな通信を確保するために、SSL（HTTPS）を使用することを推奨します。

証明書の検証
SSL通信時の証明書の検証をおこないます。
カメラのルート証明書が、「証明書」>「ルート証明書」に登録されている必要があります。

ユーザー名
設定値：英数字、記号（32文字まで）
カメラのユーザー名を入力します。管理者権限を持つユーザーが必要です。

パスワード
設定値：英数字、記号（32文字まで）
カメラのパスワードを入力します。

ストリーム
設定値：「1」 / 「2」 / 「3」 / 「4」
接続するストリームを選択します。

チャンネル
設定値：「1」 / 「2」 / 「3」 / 「4」
ストリームのチャンネルを選択します。

接続方式
設定値：「RTP over UDP」 / 「RTP over RTSP」
カメラ映像の接続方式を選択します。

5.2.5 EIZO Streaming Gateway

IPアドレス
設定値：「0.0.0.1」～「255.255.255.254」
ストリーミングゲートウェイボックスのIPアドレスを入力します。
「Ping」をクリックすると、接続テストをおこないます。

ポート
設定値：「1」～「65535」
ストリーミングゲートウェイボックスのポート番号を入力します。
「プロトコル」が「EIZO Streaming Gateway」の場合は、Streaming GatewayのWebサーバーのアクセスポートを入力します（初期値：「80」、SSLが有効な場合は「443」）。

SSL
セキュア通信をおこないます。
ストリーミングゲートウェイボックスにサーバー証明書が設定されている必要があります。
HTTPによる通信は暗号化されていないため、第三者にデータが盗聴される危険性があります。セキュアな通信を確保するために、SSL（HTTPS）を使用することを推奨します。

証明書の検証
SSL通信時の証明書の検証をおこないます。
ストリーミングゲートウェイボックスのルート証明書が、「証明書」>「ルート証明書」に登録されている必要があります。

ユーザー名
設定値：英数字、記号（32文字まで）
ストリーミングゲートウェイボックスのユーザー名を入力します。管理者権限を持つユーザーが必要です。

パスワード
設定値：英数字、記号（32文字まで）
ストリーミングゲートウェイボックスのパスワードを入力します。

ストリームリスト
接続するストリームを指定します。「ストリームリスト取得」ボタンをクリックすると、配信機器からストリームの一覧を取得します。
配信元の「ストリーミングゲートウェイ」>「配信設定」>「プロトコル」が「RTP」に設定されている場合、そのストリームは選択できません。

RTSP ユーザー名
設定値：英数字、記号（79文字まで）
RTSPのユーザー名が自動的に設定されます。変更することもできます。

RTSP パスワード
設定値：英数字、記号（79文字まで）
RTSPのパスワードが自動的に設定されます。変更することもできます。

RTSP 接続方式
設定値：「RTP over RTSP」
カメラ映像の接続方式を選択します。

SRT レイテンシ
設定値：「20 ms」～「8000 ms」
レイテンシを設定します。

SRT パスフレーズ
設定値：英数字、記号（79文字まで）
パスフレーズを設定します。

5.2.6 DirectUri

参考

- RTPでMPEG2-TSストリームを受信する場合、「接続方式」に「RTP over UDP」または「RTP over RTSP」を選択してください。
- UDPでMPEG2-TSストリームを受信する場合、次の点を確認してください。
  - 「ポート」にストリームを受信するポート番号（1024～65535）を指定し、「接続方式」に「MPEG2-TS over UDP」を選択してください。
  - 事前に配信機器からこの製品に対してストリーム配信設定をしておいてください。
  - マルチキャスト通信でない場合、IPアドレスは空欄にしてください。

IPアドレス
設定値：「0.0.0.1」～「255.255.255.254」
カメラのIPアドレスを入力します。
「Ping」をクリックすると、カメラに対して接続テストをおこないます。

ポート
設定値：「1」～「65535」
カメラのポート番号を入力します。
一般的なポート番号は、「プロトコル」が「DirectUri」かつ「URI」がRTSPストリームURIの場合は「554」です。

ユーザー名
設定値：英数字、記号（32文字まで）
カメラのユーザー名を入力します。管理者権限を持つユーザーが必要です。

パスワード
設定値：英数字、記号（32文字まで）
カメラのパスワードを入力します。

URI
設定値：英数字（1023文字まで）
RTSPストリームURI（rtsp://、http://またはhttps://から始まるURI）、またはRTPストリームURI（rtp://から始まるURI）を入力します。

配信方式
設定値：「ユニキャスト」/「マルチキャスト」/「Source-Specific Multicast」
配信方式を選択します。

接続方式
設定値：「RTP over UDP」/「RTP over RTSP」/「MPEG2-TS over UDP」/「RTSP over HTTP」/「RTSP over HTTPS」
カメラ映像の接続方式を選択します。

5.2.7 SRT

IPアドレス
設定値：「0.0.0.1」～「255.255.255.254」
カメラのIPアドレスを入力します。
「Ping」をクリックすると、カメラに対して接続テストをおこないます。

ポート
設定値：「1」～「65535」
カメラのポート番号を入力します。

レイテンシ
設定値：「20 ms」～「8000 ms」
レイテンシを設定します。

パスフレーズ
設定値：英数字、記号（79文字まで）
パスフレーズを設定します。

5.2.8 静止画ファイル

コンテンツ番号
設定値：「1」～「4」
「静止画登録」機能（5.7 静止画を登録する [P. 52]）でアップロードした画像を選択します。選択した画像のプレビューが表示されます。

5.2.9 Qognify

IPアドレス
設定値：「0.0.0.1」～「255.255.255.254」
カメラのIPアドレスを入力します。
「Ping」をクリックすると、カメラに対して接続テストをおこないます。

ポート
設定値：「1」～「65535」
カメラのポート番号を入力します。
「プロトコル」が「Qognify」の場合は、Qognify VMSのサーバーアクセスポートを入力します（初期値：62000）。

ユーザー名
設定値：英数字、記号（32文字まで）
カメラのユーザー名を入力します。管理者権限を持つユーザーが必要です。

パスワード
設定値：英数字、記号（32文字まで）
カメラのパスワードを入力します。

カメラリスト
「カメラ名取得」をクリックすると、カメラ名の一覧を取得します。

接続方式
設定値：「RTP over RTSP」
カメラ映像の接続方式を選択します。

5.3 カメラの情報を変更する

1. 「カメラ」>「カメラ登録」を選択します。
2. 変更するカメラの位置番号の編集（）をクリックします。
3. 各項目を設定します。

参考

- 各項目の詳細は、5.2 カメラを手動で登録する [P. 39]を参照してください。

4. 「OK」をクリックします。
5. 「適用」をクリックします。

5.4 カメラを削除する

1. 「カメラ」>「カメラ登録」を選択します。
2. 削除するカメラの位置番号の削除（）をクリックします。
3. 「適用」をクリックします。

5.5 カメラの情報を読み込む

カメラの追加候補を記載したCSVファイルを読み込んで、登録できます。

参考

- 読み込みが可能なカメラの候補数は、255台です。
- 読み込むことができるCSVファイルは次のとおりです。
  - 「カメラ情報の保存」機能で保存されたCSVファイル（「カメラ情報の保存」はバージョン6.0以前の機能です。）
  - ユーザーが作成したCSVファイル
  - 読み込み可能なCSVファイルの詳細は9.1 カメラ登録用CSVファイル形式 [P. 75]を参照してください。
- 「CameraName」（カメラ名）が文字化けする場合は、Unicode UTF-8以外の文字コードを使用している可能性があります。Unicode UTF-8に変更してください。

1. 「カメラ」>「カメラ登録」を選択します。
2. 「カメラ情報の読み込み」をクリックします。
3. カメラ情報が記載されているCSVファイルを選択し、「開く」をクリックします。
4. カメラの候補一覧から追加するカメラを選択し、「追加」をクリックします。
5. 「適用」をクリックします。

5.6 配信映像の画質を設定する

カメラが配信する映像の画質を設定します。

参考

- この製品は、H.265、H.264、MPEG（ONVIF ProfileS準拠のカメラのみ対応）の動画圧縮方式に対応しています。
- この機能はカメラにアクセスし、画質設定を変更します。解像度など画質設定を変更すると、同じ「エンコーダー」を使用している他の録画機器や表示機器の画質に影響を与える可能性があります。事前に画質設定の変更による影響を確認してください。
- カメラによっては、設定した値が反映されない場合があります。カメラの仕様を確認してください。
- 「プロトコル」が「ONVIF」、「AXIS」の場合のみ設定可能です。「プロトコル」が「Panasonic/i-PRO」の場合は、設定内容が表示されます。

1. 「カメラ」>「カメラ機能」を選択します。
2. 「カメラ名」リストボックスから、設定するカメラを選択します。
3. 「ビデオ」タブの各項目を設定します。
   プロトコルによって表示項目が変わります。
   - 「ONVIF」（ONVIF [P. 49]）
   - 「AXIS」（AXIS [P. 51]）
4. 「適用」をクリックします。

5.6.1 ONVIF

「メディアタイプ」が「Media2」の場合、すべての項目が読み取り専用となり、設定の変更はできません。

カメラ Web コンソール
カメラのWebページへのリンクを表示します。

メディアタイプ
メディアタイプ（Media1 / Media2）を表示します。

メディアプロファイル
設定値：EIZO_Profile / 各カメラのプロファイル
プロファイルを選択します。

エンコーダー
設定値：カメラの仕様による
エンコーダー設定を選択します。

圧縮形式
設定値：「H.264」 / 「MJPEG」
圧縮形式を選択します（「メディアタイプ」が「Media1」の場合）。
「メディアタイプ」が「Media2」の場合、設定が表示されます（「H.265」または「H.264」）。

解像度
設定値：カメラの仕様による
解像度を設定します。

フレームレート
設定値：カメラの仕様による
フレームレート（映像の更新間隔）を設定します。

エンコード間隔
設定値：カメラの仕様による
エンコードの間隔を設定します。
「メディアタイプ」が「Media2」の場合、この項目は表示されません。

ビットレート(最大)
設定値：カメラの仕様による
配信する動画の最大ビットレートを設定します。

映像品質
設定値：カメラの仕様による
画質を設定します。数値が大きいほど高画質になります。

GOV長さ
設定値：カメラの仕様による
フレーム間隔を設定します。

プロファイル
設定値：カメラの仕様による
プロファイルを設定します。

接続方式
カメラ映像の接続方式（RTP over UDP / RTP over RTSP）が表示されます。

配信方式
設定値：「ユニキャスト」/「マルチキャスト」
配信方式を選択します。

マルチキャストアドレス
設定値：「224.0.0.0」～「239.255.255.255」
マルチキャスト配信する際のマルチキャストアドレスを設定します。

マルチキャストポート
設定値：「1024」～「65534」（偶数のみ）
マルチキャスト配信する際のマルチキャストポート番号を設定します。

マルチキャストTTL
設定値：「1」～「255」
マルチキャスト配信する際のネットワークTTL値を設定します。

5.6.2 AXIS

カメラ Web コンソール
カメラのWebページへのリンクを表示します。

ビデオストリーム
設定値：カメラの仕様による
カメラ表示で使用する表示モードを選択します。

ストリームプロファイル
設定値：EIZO_Profile / 各カメラのプロファイル
カメラが保持しているプロファイルを選択します。

圧縮形式
圧縮形式（H.264 / H.265 / MJPEG）を表示します。

解像度
設定値：カメラの仕様による
解像度を設定します。

フレームレート
設定値：「1 fps」～「60 fps」
フレームレート（映像の更新間隔）を設定します。

回転
画像の回転方向（0 / 90 / 180 / 270）を表示します。

GOP長さ
動画のGOP長さを表示します。

ビットレート(最大)
設定値：「0 kbps」～「8192 kbps」
配信する動画の最大ビットレートを設定します。

優先度
設定値：「なし」/「フレームレート」/「画質」
動画圧縮の優先度を設定します。

接続方式
カメラ映像の接続方式（RTP over UDP / RTP over RTSP）が表示されます。

配信方式
設定値：「ユニキャスト」/「マルチキャスト」
配信方式を選択します。

マルチキャストアドレス
マルチキャスト配信する際のマルチキャストアドレスを表示します。

マルチキャストポート
マルチキャスト配信する際のマルチキャストポート番号を表示します。

マルチキャストTTL
マルチキャスト配信する際のネットワークTTL値を表示します。

5.7 静止画を登録する

画像をこの製品にアップロードします。カメラ登録時にアップロードした画像を指定すると、カメラ表示エリアに画像を表示できます（5.2 カメラを手動で登録する [P. 39]参照）。

1. 「カメラ」>「静止画登録」を選択します。
2. 「アップロード」をクリックします。
3. 登録する画像を選択し、「開く」をクリックします。

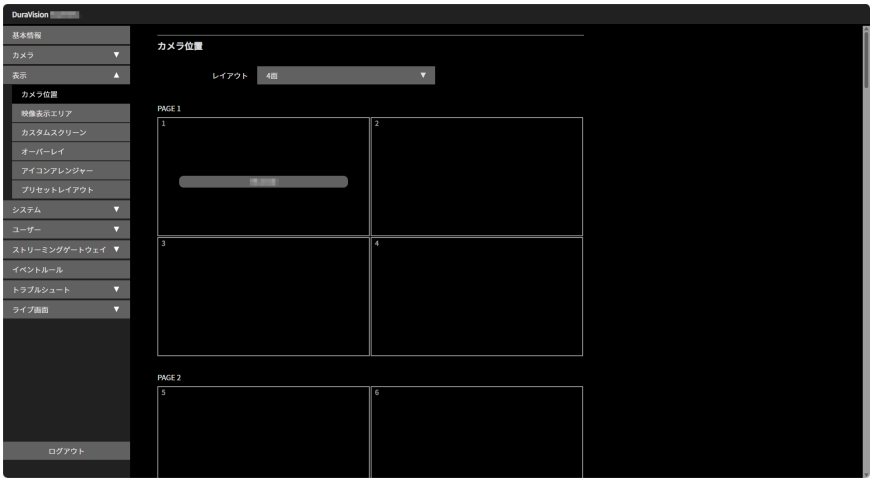
6 ライブ画面（マージモードで配信する画面）の設定

ライブ画面（マージモードで配信する画面）のレイアウト変更やシステムの現在の状態など、表示の設定をおこないます。

6.1 カメラ映像の表示位置を設定する

カメラ映像を表示する位置を設定します。
カメラ名をドラッグ&ドロップすることで、移動元と移動先に表示するカメラが入れ替わります。

1. 「表示」>「カメラ位置」を選択します。
   「カメラ位置」画面が表示されます。



2. 「レイアウト」リストボックスから、ライブ画面のレイアウトを選択します。
   レイアウトを選択すると、ページ内の表示が選択した状態に変化します。表示状態をイメージしながら設定できます。
3. 移動するカメラ名を選択し、ドラッグした状態で移動先のカメラ名へドロップします。
   移動元と移動先のカメラ映像の表示位置が入れ替わります。
4. 「適用」をクリックします。
   カメラ映像の表示位置が反映されます。「リセット」をクリックすると、設定変更中の情報は破棄され、現在の製品の表示設定になります。

6.2 カメラ映像の表示方法を設定する

ライブ画面に表示する項目についての設定をおこないます。

1. 「表示」>「映像表示エリア」を選択します。
2. 各項目を設定します。
   - 「カメラ名表示」（カメラ名表示 [P. 54]）
     - 「サイズ」（サイズ [P. 54]）
     - 「文字色」（文字色 [P. 54]）
     - 「文字枠」（文字枠 [P. 54]）
     - 「背景」（背景 [P. 54]）
     - 「位置」（位置 [P. 55]）
   - 「全画面表示の時刻表示」（全画面表示の時刻表示 [P. 55]）
     - 「サイズ」（サイズ [P. 55]）
     - 「文字色」（文字色 [P. 55]）
     - 「文字枠」（文字枠 [P. 55]）
     - 「背景」（背景 [P. 55]）
     - 「位置」（位置 [P. 55]）
   - 「シーケンス間隔」（シーケンス間隔 [P. 55]）
   - 「アスペクト比モード」（アスペクト比モード [P. 55]）
   - 「「未登録」表示」（「未登録」表示 [P. 55]）
   - 「レイアウト枠」（レイアウト枠 [P. 56]）
3. 「適用」をクリックします。

カメラ名表示

登録されているカメラ名をライブ画面に表示する場合、「有効にする」をチェックします。

サイズ

設定値：「大」/「中」/「小」
フォントサイズを設定します。

文字色

設定値：「白」/「黒」
文字色を設定します。

文字枠

文字に縁取りを付ける場合、「有効にする」をチェックします。

背景

文字の背景を半透明にする場合、「有効にする」をチェックします。

位置
設定値：「左上」/「中央上」/「右上」/「左下」/「中央下」/「右下」
文字の表示位置を設定します。

全画面表示の時刻表示
全画面表示中に画面に時刻を表示する場合、「有効にする」をチェックします。

サイズ
設定値：「特大」/「大」/「中」/「小」
フォントサイズを設定します。

文字色
設定値：「白」/「黒」
文字色を設定します。

文字枠
文字に縁取りを付ける場合、「有効にする」をチェックします。

背景
文字の背景を半透明にする場合、「有効にする」をチェックします。

位置
設定値：「左上」/「中央上」/「右上」/「左下」/「中央下」/「右下」
文字の表示位置を設定します。

シーケンス間隔
設定値：「5秒」～「60秒」
シーケンス表示時に画面が切り替わる間隔を設定します。

アスペクト比モード
設定値：「フル」/「アスペクト」
カメラから配信される映像のアスペクト比とモニターの画像表示エリアのアスペクト比が異なる場合に優先する方を設定します。「レイアウト」に「カスタムスクリーン」を選択した場合に「アスペクト」を選択すると、カメラ映像ごとに「フル」または「アスペクト」を選択できます。詳細は6.3 カスタムスクリーンのレイアウトを設定する [P. 56]を参照してください。

「未登録」表示
カメラが登録されていない場合に、「未登録」のテキストを表示する場合、「有効にする」をチェックします。

レイアウト枠

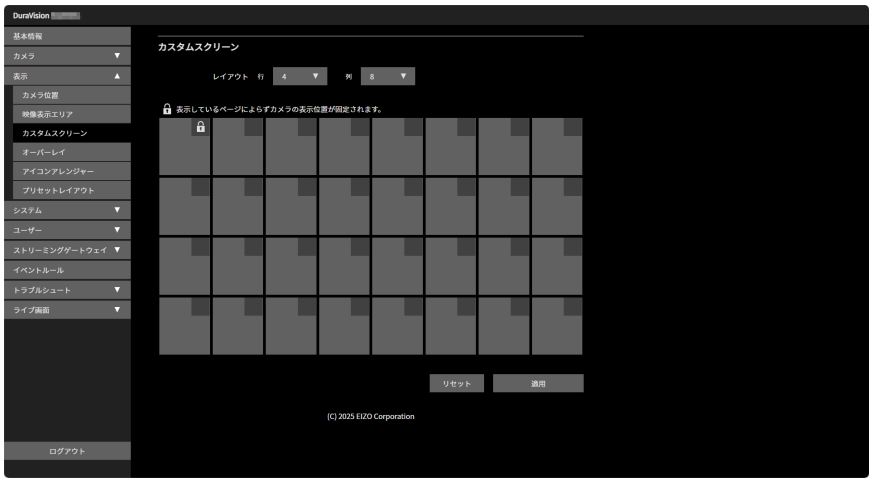
設定値：「白」 / 「黒」

カメラ画像の枠線の色を設定します。

6.3 カスタムスクリーンのレイアウトを設定する

ライブ画面の「レイアウト」で「カスタムスクリーン」を選択したときの表示レイアウトの設定をおこないます。

1. 「表示」>「カスタムスクリーン」を選択します。
   「カスタムスクリーン」画面が表示されます。



参考

- 表示位置枠内の右上をクリックすると、が表示され、任意のカメラ映像の表示位置を固定することができます。ページ切り替えを実行しても、固定されたカメラ映像の表示位置は維持されます。

2. 「行」および「列」の数をリストボックスから選択します。
   選択した行数および列数に応じた画面に変化します。
3. カメラの表示位置を選択し、ドラッグして連結する表示位置へドロップします。
   選択した表示位置が連結されます。
4. 「適用」をクリックします。
   表示位置の連結が反映されます。「リセット」を選択すると、設定変更中の情報は破棄され、現在の製品の表示設定になります。

参考

- 連結を解除するには、連結した表示位置をクリックします。または、行および列をリストボックスで変更します。
- 「アスペクト比モード」で「アスペクト」に設定すると、カメラ表示位置に「フル」または「アスペクト」が表示され、選択するごとに設定が切り替わります。「アスペクト比モード」の設定については、6.2 カメラ映像の表示方法を設定する [P. 54]を参照してください。

6.4 ライブ画面で選択可能なレイアウトを変更する

ライブ画面で選択可能なレイアウトを変更できます。

1. 「表示」>「アイコンアレンジャー」を選択します。
   「アイコンアレンジャー」画面が表示されます。「アイコン登録エリア」に登録されたアイコンのレイアウトがライブ画面で選択できます。



2. 変更したいアイコンをドラッグし、アイコン登録エリアの表示したい位置にドロップします。

参考

- 移動先に別のアイコンが登録されている場合は、アイコンの位置が入れ替わります。
- 登録を削除したい場合は、アイコン登録エリアからアイコン選択エリアにドラッグ&ドロップします。
- 

の設定は変更できません。

3. 「アイコンアレンジャー」の「適用」をクリックします。

6.5 シーケンス表示のモードを設定する

1. 「表示」>「アイコンアレンジャー」を選択します。
2. 「シーケンス」の「モード」をリストボックスから選択します。
   – 「モード」（モード [P. 58]）
3. 「シーケンス」の「適用」をクリックします。

モード

設定値：「ページ」/「プリセット」

シーケンス表示でカメラ映像を切り替える方法を選択します。

- 「ページ」
  レイアウトを維持したまま、表示するページを順に切り替えます。カメラが登録されていないページはスキップされます。
- 「プリセット」
  ライブ画面に表示されているプリセットレイアウトのアイコンを、左から順に切り替えます。プリセットレイアウトについては、6.6 プリセットレイアウトを設定する [P. 59]を参照してください。

参考

- 次の場合、ライブ画面の  は選択できません。
  – 「モード」が「ページ」で、プリセットレイアウトを表示している場合
  – 「モード」が「プリセット」で、プリセットレイアウト以外を表示している場合

6.6 プリセットレイアウトを設定する

ライブ画面の表示レイアウトとカメラの配置をプリセットレイアウトとして保存できます。

参考
• プリセットレイアウトは7個まで保存できます。

1. 「表示」>「プリセットレイアウト」を選択します。
2. 「プリセット番号」リストボックスから設定するプリセット番号を選択します。
3. 「基本設定」タブを選択し、「プリセット名」を入力します。
   – 「プリセット名」（プリセット名 [P. 60]）
4. 「行」および「列」の数をリストボックスから選択します。
   選択した行数および列数に応じた画面に変化します。
5. カメラの表示位置を選択し、ドラッグして連結する表示位置へドロップします。
   選択した表示位置が連結されます。

参考
• 連結を解除するには、連結した表示位置をクリックします。または、行および列をリストボックスで変更します。

6. 「適用」をクリックします。
7. 「カメラ選択」タブを選択します。



8. カメラ選択エリアまたはカメラ配置エリアで設定するカメラをドラッグし、カメラ配置エリアの配置したい位置にドロップします。

参考

- カメラ選択エリアで設定するカメラをクリックすると、カメラ配置エリアの空いている位置に配置されます。
- 移動先に別のカメラが配置されている場合は、カメラの位置が入れ替わります。
- 設定を解除する場合は、カメラ配置エリアからカメラ選択エリアにドラッグ＆ドロップします。

9. 「適用」をクリックします。

プリセット名

設定値：任意の文字（16文字まで）

プリセットの名前を入力します。

6.7 オーバーレイを設定する

カメラ映像上にプライバシーマスクやバーチャルラインを表示することができます。

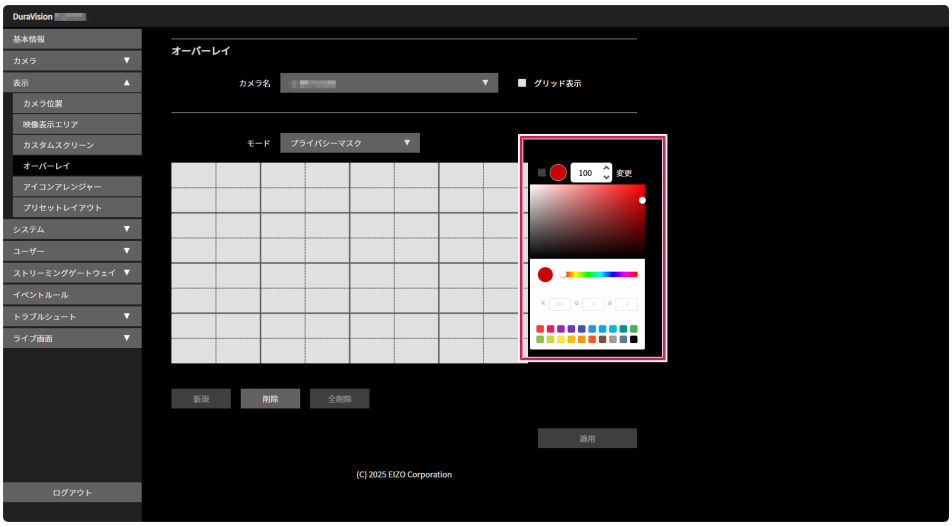
1. 「表示」>「オーバーレイ」を選択します。
2. 「カメラ名」リストボックスから設定するカメラを選択します。
   選択したカメラの設定画面が表示されます。

参考
• 「グリッド表示」をチェックすると、ライブ画面のカメラ映像上にグリッドを表示できます。



3. 「モード」リストボックスから設定するオーバーレイの種類を選択します。
   – 「プライバシーマスク」
     最大10個までのプライバシーマスクを設定できます。
     描画エリアで3点または4点を指定して、多角形のプライバシーマスクを描画します。
   – 「バーチャルライン」
     最大10個までのバーチャルラインを設定できます。
     描画エリアで2点～10点を指定して、バーチャルラインを描画します。
4. 「新規」をクリックします。
   一覧エリアに新しいオーバーレイ項目が追加されます。

5. オーバーレイの各項目を設定します。



- 「チェックボックス」（チェックボックス [P. 62]）
- 「色」（色 [P. 62]）
- 「非透過率」（非透過率 [P. 62]）
- 「太さ」（太さ [P. 63]）

6. 描画エリアにオーバーレイを描画します。
7. 「適用」をクリックします。
   オーバーレイが描画エリアに表示されます。

参考

- 特定のオーバーレイは、次の手順で削除できます。
  1. 描画エリアで削除したいオーバーレイを選択します。
     一覧エリアの選択したオーバーレイ項目に「選択」と表示されます。
  2. 「削除」をクリックします。
  3. 「適用」をクリックします。
- 「全削除」をクリックすると、すべてのオーバーレイが削除されます。

チェックボックス

オーバーレイの表示 / 非表示を切り替えます。

色

カラーパレットから色を選択します。

非透過率

設定値：「0」～「100」

「プライバシーマスク」の場合、非透過率を選択します。

太さ
設定値：「1」～「12」
「バーチャルライン」の場合、線の太さを選択します。

6.8 ライブ画面の表示方法を設定する

ライブ画面のレイアウト変更など表示の設定をおこないます。

1. 「ライブ画面」>「ライブ画面状態」を選択します。
2. 各設定項目をリストボックスから選択します。
   - 「レイアウト」（レイアウト [P. 63]）
   - 「ページ」（ページ [P. 63]）
   - 「シーケンス」（シーケンス [P. 63]）
3. 「適用」をクリックします。

レイアウト
設定値：「1面」/「3面」/「4面」/「9面」/「16面」/「32面」/「8面」/「カスタムスクリーン」
ライブ画面に表示するレイアウトを設定します。

ページ
設定値：「1」～「48」
モニターに表示するカメラ映像のページを切り替えます。

シーケンス
シーケンス表示を有効にする場合、「有効にする」をチェックします。

6.9 現在のモニター表示の状態を設定する

1. 「ライブ画面」>「システム状態」を選択します。
2. 各項目を設定します。
   - 「現在の状態」（現在の状態 [P. 63]）
3. 「適用」をクリックします。

現在の状態
設定値：「ライブ画面」/「クイック電源オフ」
状態を選択します。

- 「ライブ画面」
  モニター画面がライブ画面を表示している状態
- 「クイック電源オフ」
  電源がOFFの状態

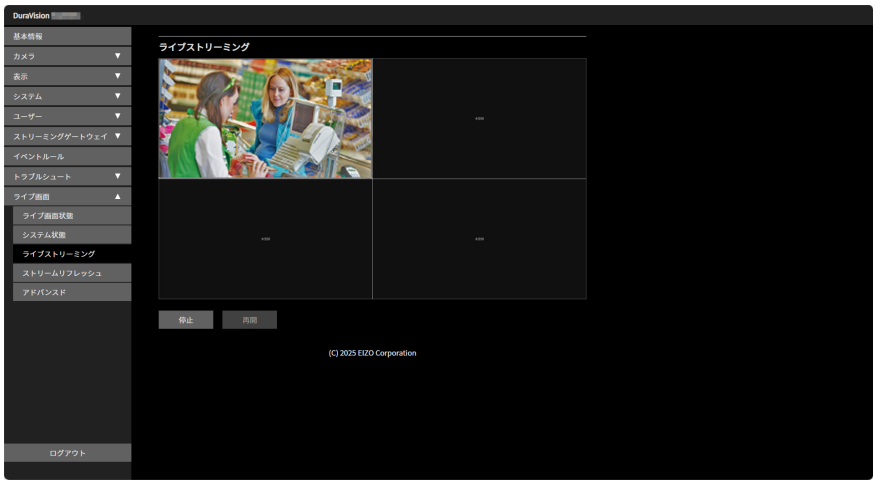
6.10 ライブストリーミングを確認する

現在のライブ画面の表示をWebブラウザから動画で確認できます。

注意点

- 「ストリーミングゲートウェイ」の「配信モード」が「リレーモード」に設定されている場合はこの機能は動作しません。
- この機能を同時に使用できるユーザーは2人までです。
- この機能の表示フレームレートは1 fpsです。
- WebブラウザがInternet Explorerの場合、この機能は動作しません。

1. 「ライブ画面」>「ライブストリーミング」を選択します。
   ライブ画面が動画で表示されます。「停止」をクリックすると動画が停止し、「再開」をクリックすると動画が再生されます。ライブストリーミングの表示をダブルクリックすると、全画面表示に切り替えることができます。



6.11 ライブ画面のカメラ映像を最新の状態に更新する

ライブ画面のカメラ映像を最新の状態に更新します。

1. 「ライブ画面」>「ストリームリフレッシュ」を選択します。
2. 「実行」をクリックします。

6.12 カメラ映像に関する高度な設定をおこなう

ライブ画面のカメラ映像の表示に関する高度な設定をおこないます。通常は、この設定を変更する必要はありません。

注意点
• 設定を変更すると正常な表示ができなくなる可能性があります。

1. 「ライブ画面」>「アドバンスド」を選択します。
2. 各項目を設定します。
   - 「Bフレームデコードバッファ」（Bフレームデコードバッファ [P. 65]）
   - 「非参照フレームスキップ」（非参照フレームスキップ [P. 65]）
   - 「非表示カメラ停止」（非表示カメラ停止 [P. 65]）
   - 「高速カメラ切り替え」（高速カメラ切り替え [P. 66]）
   - 「タイムスタンプ同期」（タイムスタンプ同期 [P. 66]）
   - 「遅延時間[0-1000 ms]」（遅延時間[0-1000 ms] [P. 66]）
   - 「通信状態表示」（通信状態表示 [P. 66]）
   - 「RTP受信ポート制限」（RTP受信ポート制限 [P. 66]）
   - 「RTP受信ポート範囲」（RTP受信ポート範囲 [P. 67]）
3. 「適用」をクリックします。

Bフレームデコードバッファ

「有効にする」をチェックすると、Bフレームを含むストリームが表示可能になりますが、次の現象が発生します。初期設定は「有効にする」はチェックされていません。

- カメラ映像の表示が遅延する。
- 1 fpsなど低フレームレートの映像が表示できない場合がある。

非参照フレームスキップ

「有効にする」をチェックすると、参照されていない参照フレームをスキップして表示を維持しますが、次の現象が発生します。

- カメラ映像のカクつきが増加する可能性がある。

非表示カメラ停止

「有効にする」をチェックすると、ライブ画面に表示中のカメラとの通信のみを維持し、非表示のカメラとの通信を毎回切断します。カメラとの通信を最低限にできますが、次の現象が発生します。初期設定は「有効にする」はチェックされていません。

- 表示が始まるタイミングでカメラとの通信を開始するため、カメラ映像が表示されるまでに時間がかかる。

高速カメラ切り替え

「有効にする」をチェックすると、表示していないカメラのデコードを維持し、ページ切り替え時のカメラ映像表示までの時間を短縮できますが、次の制限があります。初期設定は「有効にする」はチェックされていません。

- 表示できるカメラは32台まで（33台目以降は通信に失敗する）。
- 「非表示カメラ停止」機能が有効になっている場合、この機能は無効になる（「非表示カメラ停止」機能が優先される）。
- 画面に表示されていないカメラ映像も並行してデコード処理がおこなわれるため、現在の表示レイアウトではなく、システムに登録されているカメラの総数に基づいてデコード性能が決まる（10.2 デコード性能 [P. 78]参照）。

タイムスタンプ同期

この機能はRTSPまたはRTPで受信した映像ストリームに対してのみ適用されます。

「有効にする」をチェックすると、カメラから受信したタイムスタンプに従ってライブストリーミングを表示します。表示のカクつきが改善される場合がありますが、次の現象が発生します。初期設定は「有効にする」はチェックされていません。

- 遅延時間（バッファリング時間）の設定を大きくすると、表示はより安定するが表示遅延が大きくなる。遅延時間の設定を小さくすると、表示遅延は小さくなるが安定した表示ができなくなる可能性がある。
- CPU負荷増加により、表示できるフレームレートが低下するなどパフォーマンスが低下する。

遅延時間[0-1000 ms]

「タイムスタンプ同期」の遅延時間を0から1000 msの範囲で設定できます。

通信状態表示

「有効にする」をチェックすると、データ受信やネットワーク状況を画面右上に表示する丸の色で確認できます。初期設定は「有効にする」はチェックされていません。

- 黒色
  初期状態
- 赤色
  パケットロスト検知
- 黄色
  一定時間パケット受信なし
- 灰色
  高負荷によるフレームレート低下
- 緑色
  30フレーム以上正常受信

RTP受信ポート制限

「有効にする」をチェックすると、「RTP受信ポート範囲」の設定が有効になり、受信ポートの範囲が制限されます。初期設定は「有効にする」はチェックされていません。

RTP受信ポート範囲

設定値：「1024」～「65535」

RTSP通信後に使用するRTP受信ポート（udp）の範囲を指定します。

7 3Dカメラの設定

この製品に対象の機能拡張ライセンスが登録されている場合、3D映像を生成するカメラの登録や、3D映像の視差の調整ができます。

注意点

- 「ストリーミングゲートウェイ」>「配信モード」で「マージモード(低遅延)」を選択してください。遠隔操作に適した低遅延の配信をおこなえます（ストリーミングゲートウェイ [P. 13]参照）。
- この製品が配信するストリームの受信機器としてDX0231-IPを使用する場合、DX0231-IPの「レイアウト」を「1面」に設定し、3Dモニターに出力してください。

7.1 3D映像を生成するカメラを登録する

3D映像を生成するために使用する2台のカメラを指定します。

- 配信方式：RTP
- 圧縮方式：H.264

1. 「3Dカメラ」>「3Dカメラ登録」を選択します。
2. 各項目を設定します。
   - 「左カメラ」（左カメラ [P. 68]）
   - 「右カメラ」（右カメラ [P. 69]）
   - 「魚眼補正」（魚眼補正 [P. 69]）
3. 「適用」をクリックします。
   指定したカメラが「カメラ」>「カメラ登録」の一覧に登録されます（左カメラ：No.1、右カメラ：No.2）。

参考

- 「ライブ画面」の「レイアウト」が「カスタムスクリーン」、「ページ」が「1」に設定されます。
- カメラを削除すると、その位置番号の魚眼補正はオフになります。カメラを削除せずに上書き登録した場合、魚眼補正の設定は引き継がれます。
- カメラの削除は「カメラ」>「カメラ登録」でおこないます（5.4 カメラを削除する [P. 48]参照）。

左カメラ

設定値：「1024」～「65534」、偶数のみ

3D映像の左カメラが配信するRTPポート番号（この製品が受信するRTPポート番号）を指定します。初期設定は「50004」です。

右カメラ

設定値：「1024」～「65534」、偶数のみ

3D映像の右カメラが配信するRTPポート番号（この製品が受信するRTPポート番号）を指定します。初期設定は「50006」です。

魚眼補正

魚眼補正を使用する場合は、「有効にする」をチェックします。

固定の調整値が適用されます（補正値は変更できません）。

注意点

- 次の場合、この設定に関わらず魚眼補正は無効になります。
  - 「ストリーミングゲートウェイ」の「配信モード」が「リレーモード」に設定されている場合（ストリーミングゲートウェイ [P. 13]参照）
  - 受信するカメラ映像の圧縮形式がMJPEGの場合

7.2 3D映像の視差を調整する

3Dモニターでの表示を疑似的に再現し、実際の見え方を確認しながら視差を調整することができます。

注意点

- 「ストリーミングゲートウェイ」の「配信モード」が「リレーモード」に設定されている場合はこの機能は動作しません（ストリーミングゲートウェイ [P. 13]参照）。

参考

- 3D映像そのものを表示する機能ではないため、この画面上では立体には見えません。
- 3Dモニター側の入力信号フォーマットを「サイドバイサイド」に設定してください。

1. 「3Dカメラ」>「視差調整」を選択します。
2. 各機能を操作して調整します。

視差調整

水平位置 / 垂直位置を調整する場合は、はじめにズームインする必要があります。



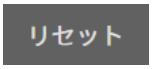
：ズームイン / ズームアウトします。2つのカメラ映像が同時に拡大 / 縮小します。



：水平位置を調節します。2つのカメラ映像が互い違いの方向に移動します。



：垂直位置を調節します。2つのカメラ映像が互い違いの方向に移動します。



：調整前の表示に戻します。

8 ユーザーアカウントの管理

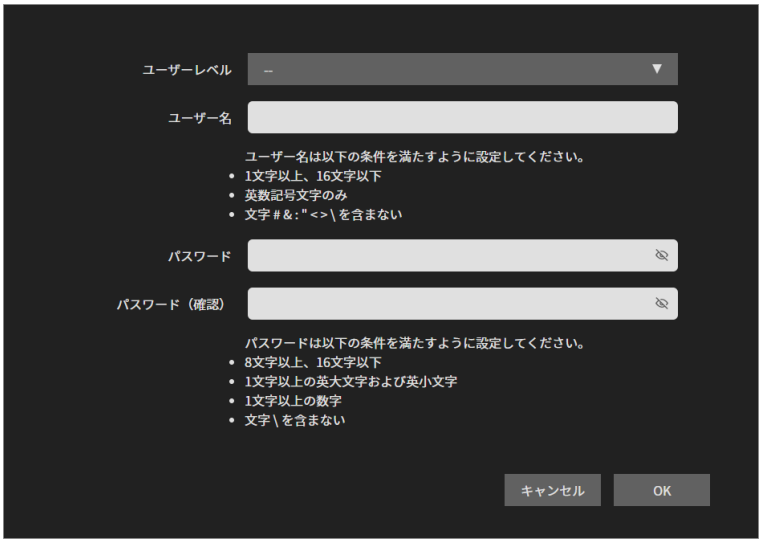
システムにアクセスするユーザーアカウント（ユーザー名、ユーザーレベル、パスワード）を登録、変更、削除します。

注意点

- ユーザーアカウントは10名まで登録できます。10名を超えると、新規にユーザー情報を登録することはできません。
- 登録済みユーザーアカウントと同じユーザー名は登録できません。
- ユーザーレベルが「ADMIN」のユーザーを1名以上登録する必要があります。

8.1 ユーザーアカウントを登録する

1. 「ユーザー」>「ローカルユーザー」を選択します。
2. 「追加」をクリックします。
   ユーザーアカウントを設定するダイアログボックスが表示されます。



3. 各項目を設定します。
   - 「ユーザーレベル」（ユーザーレベル [P. 70]）
   - 「ユーザー名」（ユーザー名 [P. 71]）
   - 「パスワード」（パスワード [P. 71]）
   - 「パスワード（確認）」
     確認のために、同じパスワードを再度入力します。
4. 「OK」をクリックします。

ユーザーレベル

「ADMIN」を選択します。
ユーザーレベルが「ADMIN」以外のユーザーアカウントでは、この製品を使用できません。

ユーザー名

ユーザー名を入力します。ユーザー名は以下の条件を満たすように設定してください。

- 1文字以上、16文字以下
- 英数記号文字のみ
- 文字 # & : " < > \ を含まない

次のユーザー名は設定できません。

- 「.」、「..」、「auto-login」

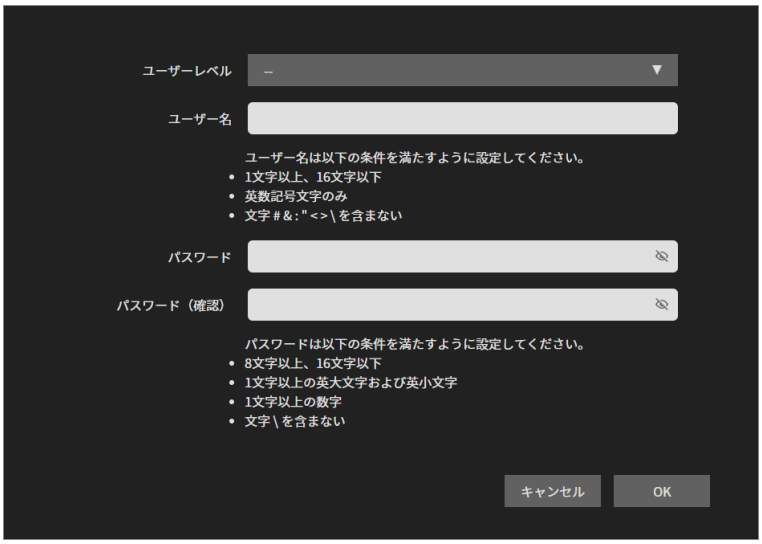
パスワード

パスワードを入力します。第三者に推測されにくいパスワードを設定してください。

- 8文字以上、16文字以下
- 1文字以上の英大文字および英小文字
- 1文字以上の数字
- 文字 \ を含まない

8.2 ユーザーアカウントを変更する

1. 「ユーザー」>「ローカルユーザー」を選択します。
2. 変更するユーザーの編集（）をクリックします。
3. 各項目を設定します。
   - 「ユーザーレベル」（ユーザーレベル [P. 70]）
   - 「ユーザー名」（ユーザー名 [P. 71]）
   - 「パスワード」（パスワード [P. 71]）
   - 「パスワード（確認）」
     確認のために、同じパスワードを再度入力します。



4. 「OK」をクリックします。

8.3 ユーザーアカウントを削除する

1. 「ユーザー」>「ローカルユーザー」を選択します。
2. 削除するユーザーの削除（）をクリックします。
   「ユーザーXXXを削除してもよろしいですか？」の確認ダイアログボックスが表示されます。
3. 「OK」をクリックします。

8.4 LDAP設定をおこなう

ユーザー管理にディレクトリサービス（LDAP）をお使いの場合、LDAPサーバー上のユーザーアカウントを利用してこの製品にログインできます。

注意点

- Webブラウザによるアクセスはユーザーレベルが**ADMIN**のアカウントのみ可能です。
- LDAP設定を適用する前に、ログインテストでユーザーレベルが**ADMIN**のユーザーアカウントでログインできることを確認してください。LDAP設定を誤るとこの製品にログインできなくなります。

1. 「ユーザー」>「LDAP」を選択します。
2. 各項目を設定します。
   - 「ユーザーアカウント」（ユーザーアカウント [P. 72]）
   - 「LDAP設定」（LDAP設定 [P. 72]）
   - 「検索フィルター設定」（検索フィルター設定 [P. 73]）
   - 「ログインテスト」（ログインテスト [P. 74]）
3. 「適用」をクリックします。

8.4.1 ユーザーアカウント

タイプ

設定値：「ローカルユーザー」/「LDAP」

ユーザーアカウントのタイプを選択します。「LDAP」に設定すると、ローカルユーザーによるログインはできなくなります。

8.4.2 LDAP設定

サーバーアドレス

設定値：英数字、記号（255文字まで）

LDAPサーバーのIPアドレスまたはホスト名を入力します。

ポート

設定値：「1」～「65535」

ポート番号を入力します。

一般的なポート番号は、「389」（SSLが有効な場合は「636」）です。

ベース DN
設定値：英数字、記号（255文字まで）
検索するブランチの識別名を入力します。
例：ou=ldap,dc=example,dc=com

バインド DN
設定値：英数字、記号（255文字まで）
ベースDNへのアクセス権を持つユーザー名を入力します。
例：cn=binduser,ou=ldap,dc=example,dc=com

バインドパスワード
設定値：英数字、記号（255文字まで）
バインドDNのパスワードを入力します。

ユーザー名の属性
設定値：英数字、記号（255文字まで）
ログインしたいユーザーアカウント名の属性を入力します。
例：cn

SSL
SSL通信（LDAPS）をおこなう場合、「有効にする」をチェックします。

証明書の検証
証明書の検証をおこなう場合、「有効にする」をチェックします。
LDAPサーバーのルート証明書が、この製品の「ルート証明書」に登録されている必要があります。

8.4.3 検索フィルター設定

ADMINユーザーフィルター
設定値：英数字、記号（255文字まで）
ADMINアクセス権のユーザーのフィルターを設定します。
例：
（memberOf=cn=admin,ou=ldap,dc=example,dc=com）

CAMERA CONTROLユーザーフィルター
カメラ制御アクセス権を有効にする場合、「有効にする」をチェックし、フィルターを設定します。

LIVEユーザーフィルター
LIVEアクセス権を有効にする場合、「有効にする」をチェックし、フィルターを設定します。

8.4.4 ログインテスト

ユーザー名
設定値：英数字、記号（32文字まで）
ユーザー名を入力します。

パスワード
設定値：英数字、記号（32文字まで）
パスワードを入力します。

テスト
設定値：「実行」
ログインテストを実行します。

9 ご参考に

9.1 カメラ登録用CSVファイル形式

「カメラ情報の読み込み」（5.5 カメラの情報を読み込む [P. 48]参照）で、読み込み可能なCSVファイルは次の条件を満たす必要があります。

- カンマ区切りのCSVファイル
- 1行目は項目行
- 項目行に項目がすべて揃っている
- 各項目の値が設定範囲内
- CSVファイルの文字コードはUTF-8

項目行の名前	設定範囲				
	ONVIF	AXIS	Panasonic/i-PRO	DirectUri	SRT
CameraName	（任意） 任意の文字（100文字まで）	（任意） 任意の文字（100文字まで）	（任意） 任意の文字（100文字まで）	（任意） 任意の文字（100文字まで）	（任意） 任意の文字（100文字まで）
Protocol	ONVIF※1	AXIS	Panasonic	DirectUri	SRT
IPAddress	（必須） 0.0.0.1 ～ 255.255.255.254	（必須） 0.0.0.1 ～ 255.255.255.254	（必須） 0.0.0.1 ～ 255.255.255.254	（必須） 0.0.0.1 ～ 255.255.255.254	（必須） 0.0.0.1 ～ 255.255.255.254
Port※2	（必須） 1 ～ 65535	（必須） 1 ～ 65535	（必須） 1 ～ 65535	（必須） 1 ～ 65535	（必須） 1 ～ 65535
UserName	（任意） 英数字、記号（32文字まで）	（任意） 英数字、記号（32文字まで）	（任意） 英数字、記号（32文字まで）	（任意） 英数字、記号（32文字まで）	（任意） 英数字、記号（32文字まで）
PassWord	（任意） 英数字、記号（32文字まで）	（任意） 英数字、記号（32文字まで）	（任意） 英数字、記号（32文字まで）	（任意） 英数字、記号（32文字まで）	（任意） 英数字、記号（32文字まで）
Uri	不要	不要	不要	（必須） 英数字（1023文字まで）	（必須） 英数字（1023文字まで）
Comm. Method	udp / rtsp	udp / rtsp	udp	udp / rtsp / m2ts_udp	不要
Enable SSL	off / on	off / on	off / on	不要	不要
Certificate Validation	off / on	off / on	off / on	不要	不要
Passphrase	不要	不要	不要	不要	（任意） 英数字、記号（79文字まで）

項目行の名前	設定範囲				
	ONVIF	AXIS	Panasonic/i-PRO	DirectUri	SRT
Latency	不要	不要	不要	不要	（必須） 20 ms ～ 8000 ms
TransmissionMode	unicast / multicast	unicast / multicast	不要	unicast / multicast / ssm	不要

※1 「プロトコル」が「ONVIF」の場合、「メディアタイプ」は「Media1」になります。

※2 一般的なポート番号は、「プロトコル」が「ONVIF」、「AXIS」、「Panasonic/i-PRO」の場合は「80」（SSLが有効な場合は「443」）、「プロトコル」が「DirectUri」かつ「URI」がRTSPストリームURIの場合は「554」です。

CSVファイルのサンプル

```
CameraName,Protocol,IPAddress,Port,UserName,PassWord,Uri,Comm. Method,Enable SSL,Certificate Validation,Latency,Passphrase,TransmissionMode
camera1,panasonic,192.168.0.101,80,user,pass,,udp,off,off,,,
camera2,onvif,192.168.0.103,80,user,pass,,udp,off,off,,,unicast
camera3,srt,192.168.0.104,5000,user,pass,srt://192.168.0.104,,off,off,125,12345678,
camera4,directUri,192.168.0.105,554,user,pass,rtsp://192.168.0.105/stream1,udp,off,off,,,unicast
camera5,directUri,224.0.0.1,10002,user,pass,,m2ts_udp,off,off,,,multicast
```

10 仕様

10.1 仕様一覧

10.1.1 デコード処理

インターレース方式の映像ストリーミングは表示できません。

同時表示カメラ台数	32（最大）
登録可能カメラ台数	48（最大）
カメラプロトコル	ONVIF Profile S、AXIS VAPIX、Panasonic/i-PRO、RTSP、SRT
動画圧縮形式	H.265、H.264、MJPEG
音声圧縮形式	AAC、Opus、G.711、G.726
ストリーミングプロトコル	RTP（H.265、H.264、MJPEG、MPEG2-TS）、SRT（H.265、H.264）、UDP（MPEG2-TS）
ビットレート	8192 kbps（最大）
最大解像度	H.265、H.264：3840×2160[※1] MJPEG：640×480
最大フレームレート	60 fps[※2]

※1 最大解像度を超えると、画像は表示されません。カメラの解像度およびビットレートを下げてください。

※2 最大フレームレートは解像度によって異なります（10.2 デコード性能 [P. 78]参照）。

10.1.2 ネットワーク

有線LAN規格	RJ-45（1000BASE-T、100BASE-TX）
通信プロトコル	DHCP、DNS、HTTP、HTTPS、LDAP、LDAPS、NTP、RTP、RTSP、SNMP、SRT、IEEE802.1X

10.1.3 電源

電源入力	PoE+入力：IEEE802.3at Type2 ACアダプタ: DC 12 V ±10 %、2.0 A
最大消費電力	PoE+入力：25.5 W ACアダプタ: 24.0 W

10.1.4 機構

外観寸法	165 mm×44.2 mm×130 mm（幅×高さ×奥行）
質量	約720 g

10.1.5 動作環境条件

温度	0 ˚C～40 ˚C
湿度	20 %～80 %（R.H.、結露なきこと）
気圧	540 hPa～1060 hPa

10.1.6 輸送 / 保存環境条件

温度	-20 ˚C～60 ˚C
湿度	10 %～90 %（R.H.、結露なきこと）
気圧	200 hPa～1060 hPa

10.2 デコード性能

参考

- レイアウトに応じて、映像は製品内で自動的に拡大・縮小されます。
- 値は参考値です。カメラの設定やネットワークの設置環境などによりデコード性能を超えると、映像が正しく表示されません。映像が正しく表示されない場合は、カメラの解像度およびビットレートを下げてください。カメラの設定は使用するカメラの取扱説明書に従ってください。
- 「プロトコル」が「ONVIF」の場合のみ、MJPEGに対応可能です。

10.2.1 マージモードのデコード性能（H.265 / H.264、「ビットレート」設定が「4096 kbps」の場合）

4面レイアウト	3840×2160 / 20 fps、1920×1080 / 60 fps、1280×720 / 60 fps
9面レイアウト	1920×1080 / 30 fps、1280×720 / 50 fps、640×480 / 60 fps
12面レイアウト	1920×1080 / 20 fps、1280×720 / 40 fps、640×480 / 60 fps
16面レイアウト	1920×1080 / 20 fps、1280×720 / 40 fps、640×480 / 60 fps
32面レイアウト	1280×720 / 15 fps、640×480 / 30 fps

10.2.2 MJPEG

640×480 / 30 fps

付録

商標

HDMI、HDMI High-Definition Multimedia Interfaceという語、HDMIのトレードドレスおよびHDMIのロゴは、HDMI Licensing Administrator, Incの商標または登録商標です。

DisplayPortはVideo Electronics Standards Associationの米国およびその他の国における商標です。

SuperSpeed USB Trident LogoはUSB Implementers Forum, Inc.の登録商標です。

SuperSpeed USB Power Delivery Trident LogoはUSB Implementers Forum, Inc.の商標です。

USB Type-C、USB-CはUSB Implementers Forum, Incの登録商標です。

DICOMは、National Electrical Manufacturers Associationが所有する、医用情報のデジタル通信に関する規格の登録商標です。

Kensington、MicrosaverはACCO Brands Corporationの登録商標です。

Thunderbolt、IntelはIntel Corporationの米国および/またはその他の国における商標です。

Microsoft、Windows、Internet Explorer、Microsoft Edge、.NET Framework、SQL Server、Windows Server、Active Directoryは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

Adobe、Acrobat、Reader、Creative Cloud、Lightroom、Photoshop、Photoshopロゴ、Photoshop ElementsはAdobe(アドビ)の米国およびその他の国における登録商標です。

Apple、MacBook Pro、macOS、macOS Big Sur、macOS Catalina、macOS Monterey、macOS Venturaは米国およびその他の国や地域におけるApple Inc.の登録商標です。

ONVIFはONVIF Inc.の商標です。

AXIS、VAPIXはAxis ABのスウェーデンおよびその他の国における登録商標です。

EIZO、EIZOロゴ、ColorEdge、CuratOR、DuraVision、FlexScan、FORIS、RadiCS、RadiForce、RadiNET、Raptor、VisionCoreはEIZO株式会社の日本およびその他の国における登録商標です。

ColorEdge Tablet Controller、ColorNavigator、EcoView NET、EIZO EasyPIX、EIZO Monitor Configurator、EIZO ScreenSlicer、G-Ignition、i・Sound、Quick Color Match、RadiLight、Re/Vue、SafeGuard、Screen Administrator、Screen InStyle、ScreenCleaner、UniColor Pro、ScreenManagerはEIZO株式会社の商標です。

QognifyおよびQognifyのロゴは、Hexagon ABまたはその子会社 / 関連会社の米国および/またはその他の国おける商標または登録商標です。

その他の会社名、商品名およびロゴマークは所有者の商標または登録商標です。

ライセンス

本書に使用の一部の画像は、マイクロソフトの許諾を得て使用しています。

この製品にはオープンソースソフトウェアが含まれています。オープンソースソフトウェアのうちGPL（GNU GENERAL PUBLIC LICENSE）の条件にて利用許諾されるものが含まれる場合には、GPLの利用許諾条件に従い、当社は次のコンタクト情報宛てにコンタクトしてきた個人、団体に対し、お買い上げ後、少なくとも3年間、実費にてGPLソフトウェアに対応するソースコードを、CD-ROMなどの媒体により頒布いたします。また、LGPL（GNU LESSER GENERAL PUBLIC LICENSE）の条件にて利用許諾されるものが含まれる場合についても、上述のGPLの場合と同様の手続きにてソースコードを頒布いたします。

コンタクト情報：www.eizo.co.jp/support/product/

GPL/LGPLその他に基づきライセンスされるオープンソースソフトウェアを除き、この製品に含まれるソフトウェアの譲渡、コピー、逆アセンブル、逆コンパイル、リバースエンジニアリングは禁じられています。また、この製品に含まれるすべてのソフトウェアの輸出法令に違反した輸出行為は禁じられています。

本製品は下記URLに掲載されている特許の1つ以上の請求項の権利範囲に含まれています。
patentlist.hevcadvance.com

本製品には、OpenSSL Toolkit（https://www.openssl.org/）で使用するためにOpenSSLプロジェクトにより開発されたソフトウェアが含まれています。

この製品には、Independent JPEG Groupによって作成されたソフトウェアが含まれています。

この製品に使用されているオープンソースソフトウェアのライセンス情報は
www.eizoglobal.com/support/oss/に掲載されています。



00N0N663CZ
UM-SGX0031

Copyright © 2025 - 2026 EIZO Corporation. All rights reserved.

3rd Edition – September, 2026